



# Hiroshima University Sign Guide Line

広島大学 サインガイドライン

東広島キャンパス編

2009/2/17 Ver.1.0

HIROSHIMA UNIVERSITY

## 第Ⅰ章 サイン整備ガイドラインの概要

1. ガイドライン策定の目的	01
2. ビジュアル・アイデンティティ・ デザイン・システム・マニュアル(H.16制定)の位置づけ	01
3. サイン整備の流れ	02

## 第Ⅱ章 サイン整備対象

1. 東広島キャンパスの構造と特性	03
2. 案内誘導の対象者	04
3. サインの現況と整備方針	05

## 第Ⅲ章 サイン整備の考え方

1. サイン整備基本理念	07
2. 広大独自のサインシステム	11
3. 継続的整備推進	22
4. 周辺環境整備との連携	23

## 第Ⅳ章 基本デザイン

1. 基本デザイン対象と位置づけ	24
2. デザインコンセプト	25
3. デザイン共通事項	26
4. 基本デザイン対象のラインナップ	29
5. 案内サイン	30
6. 誘導サイン	32
7. 記名サイン	36
8. 禁止/注意サイン	39
9. 周回ループサイン	41
10. おたすけサイン	42

## 第Ⅴ章 ケーススタディ

# 第I章 サイン整備ガイドラインの概要

## 第I章 サイン整備ガイドラインの概要

1.ガイドライン策定の目的	01
2.ビジュアル・アイデンティティ・ デザイン・システム・マニュアル(H.16制定)の位置づけ	01
3.サイン整備の流れ	02

## 1. ガイドライン策定の目的

当ガイドラインは東広島キャンパスへの移転開始27年目を機に、同キャンパスのサイン環境を見直し、改善するための指標として策定するものです。

ガイドラインは案内誘導サインを新規設置または改修する際の物理的、概念的共通指標を示すことで、キャンパスとして秩序と統一感のある情報配置を目指しています。

## 2. ビジュアル・アイデンティティ・デザイン・システム・マニュアル(H.16制定)の位置づけ

ビジュアル・アイデンティティ・デザイン・システム・マニュアル(以下VIマニュアル)は広島大学が発信する視覚情報の核であり、当サインガイドラインの上位計画として位置づけます。

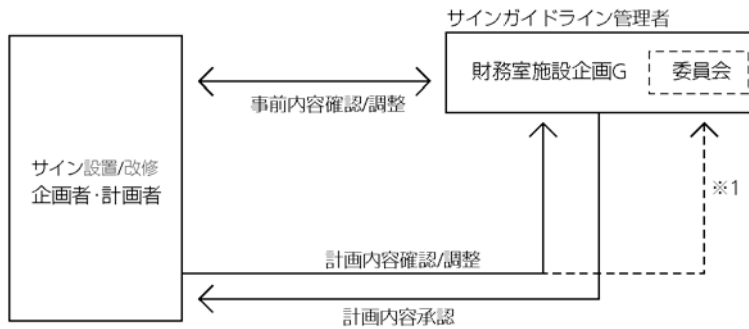
当サインガイドラインはVIマニュアルで包含しきれない具体的なキャンパス内での物理的案内誘導のための最適性を検討し、補完するものです。



### 3.サイン整備の流れ

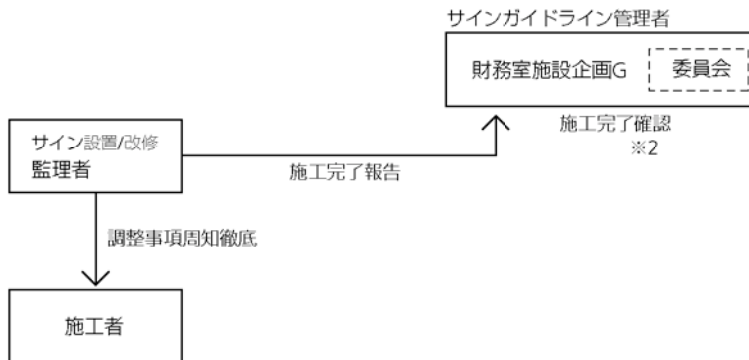
サインの新規設置または改修の際には、その規模や内容にかかわらず、必ず当ガイドラインを参照してください。具体的な作業の流れは下図に示します。

#### 【企画から計画承認まで】



※1  
整備の規模によっては専門の委員会での承認が必要です。

#### 【施工から確認まで】



※2  
基本的には報告内容および現地状況の確認ですが、場合によっては是正をお願いすることがあります。

---

# 第Ⅱ章 サイン整備対象

## 第Ⅱ章 サイン整備対象

- |                  |    |
|------------------|----|
| 1.東広島キャンパスの構造と特性 | 03 |
| 2.案内誘導の対象者       | 04 |
| 3.サインの現況と整備方針    | 05 |

## 1.東広島キャンパスの構造と特性

ここではサイン整備の視点で、東広島キャンパスの構造と特性を考察します。

### 1-1.地理

東広島キャンパスは250haという全国屈指の敷地面積を誇ります。敷地内に鏡山やぶどう池を含み、多数の施設群にもまして森や水辺の景観が印象的です。

**市街地と直接接していない**ので、キャンパスへのアクセスはバス、タクシーなどの公共交通か、自家用車、オートバイ、自転車が主な手段です。

キャンパス内の移動は徒歩が基本ですが、学生を中心に**自転車での移動**も多くあります。



### 1-2.施設

講義棟、実験棟などの建築諸施設、テニスコートや大小広場などのオープンスペースを含め、キャンパス内には案内誘導の対象となる施設が数多くあります。学術棟は研究分野により、ある程度集合はしていますが、それぞれの**規模が大きくアプローチの仕方も多様**なため、外来者にとっては難しい道のりとなっています。

また、自然の中のキャンパスというにふさわしい良好な環境の反面、**夜間における暗さ**を完全に払拭することは困難で、安全面での課題となっています。



### 1-3.空間把握のよりどころ/行動の拠点

キャンパスを代表する空間として、1)中央図書館前を中心とした広場、2)総合科学部前からスペイン広場にいたるオープンスペース、3)工学部施設群内を貫く並木道、の3つがあげられます(以下、「三広場」)。それぞれキャンパスを代表する個性的な景観であるうえに、学生や教職員の行動拠点と一致しています。



1)中央図書館前を中心とした広場 2)総合科学部前からスペイン広場にいたるオープンスペース 3)工学部施設群内を貫く並木道



### 1-4.ゲート

キャンパスには一部を除き、敷地境界を示す厳密なフェンスではなく、**物理的にも開かれた大学を具現**しています。ただし車両に対するゲートは敷地内に8箇所設置し、学内への入口として明確にしています。



### 1-5.アクセシビリティへの取り組み

広島大学ではアクセシビリティ(接近可能性)向上への取り組みに力を入れています。諸施設への**アプローチのしやすさ**はもとより、情報コミュニケーションにおける**分かりやすさ**も重要課題としています。

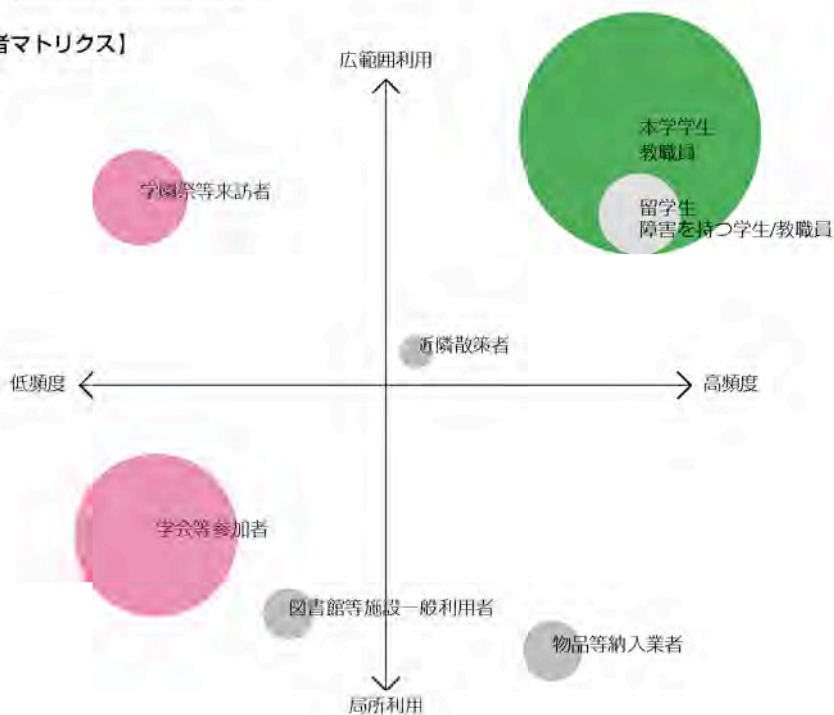


## 2.案内誘導の対象者

当ガイドラインで示すサインの対象者と、そのねらいを明確にします。

### 2-1.キャンパス利用者の種類

【利用者マトリクス】



### 2-2.利用者傾向とサイン整備の位置づけ

一般に開かれたキャンパスとはいえ、鉄道駅や空港などとは違い、利用者は一定の対象に絞られます。

その中でも**情報弱者である低頻度利用者**に対して円滑に情報を伝えることがサイン整備の最優先課題です。

一方、**学生や教職員**など、キャンパスを良く知る人々にとっても、サイン整備をすることで**空間の共有意識を高める**ことができるなどの効果が考えられます。また、留学生や障害を持つ学生/教職員に対しての**情報強化**(英語表記、照明付きサイン)を図ることも必要です。

以上のことから、対象の利用者別を絞るのではなく、サインを整備することでキャンパスの骨格が自然と見えてくるような、**空間把握の装置**としての位置づけが好ましいと考えられます。



### 3.サインの現況と整備方針

現地調査により、キャンパス内のサインの現況(2008年12月現在)と整備方針を示します。

#### 3-1.総合案内サイン



二種類の筐体タイプが存在しますが、版面も大きく、サイン景観としての影響力があるので、将来的には統一を図りたいものです。

表示内容は統一され、総合案内サインとしての機能は満たしているのに、最優先課題ではありませんが、近づけない状態もあるため、これに対する配慮が必要です。

#### 3-2.記名サイン



案内サインをスタート地点とすればゴール地点を明確に示すものが記名サインです。

現況では場所によって様々な表現がなされています。

機能としてはアプローチの早めの段階で認識できることが最重要なので、その点で不具合がない限りデザインの統一は将来対応でよいでしょう。

ゲート名の明記はあっても「広島大学」の記名がないことや、多くの駐輪場に名称の記名がないことは基礎的な情報の欠落と言えますので早めに改善を図るべきです。

## 3.サインの現況と整備方針

## 3-3.誘導サイン



筐体の統一性はありますが、全ての情報が並列的に表示されているため、分かりにくい状況です。また、同一場所でもそれぞれのサインが分散していることが多く、利用者によっては混乱を招いてしまうおそれがあります。

適材適所を旨とする誘導サインとはいえ、できるかぎり集約化をはかり、**情報拠点の景観づくり**をこころがけたいものです。

## 3-4.注意/警告サイン



注意/警告系のサインは事態にすばやく対処するため、にわかづくりになりがちです。一時的な対処も必要ですが、常設化するものは筐体やグラフィックデザイン、設置箇所を総合的に調整する必要があります。

---

# 第Ⅲ章 サイン整備の考え方

## 第Ⅲ章 サイン整備の考え方

1. サイン整備基本理念	07
2. 広大独自のサインシステム	11
3. 継続的整備推進	22
4. 周辺環境整備との連携	23

---

## 1. サイン整備基本理念

サイン整備の基本構想に入る前に、広島大学キャンパスの目指す環境づくりに照らした当ガイドラインとしての整備理念を明確にします。

### 1-1. サイン整備に先立つ上位理念

#### 1 平和の風景づくり

平和とは、戦争の対局ではない。心の豊かさ、自然に生かされている状態、充足感を提供することが大切である。

広島大学の理念のひとつ「平和を希求する精神」は、誰もが平和の尊さを心の中に持ち続けることが、なによりもまず必要とされる。

#### 2 こころの場所づくり

安心、安全、明るい未来への展望を感じることは、これから教育研究の場である大学にとって、求められる要素である。知の象徴として、そこに属すること、そこから発展してゆく明るい未来を感じることが、デザインとして求められる。

#### 3 対話の場づくり

結節点における滞留は、やすらぎとともに、新たな出会いや思考を深める上で、重要な要素である。

人々が立ち止まり、学問や人々との新たな出会いの場を提供するところが、大学の果たす役割である。

#### 4 共存の環境づくり

在学生、教職員、来訪者の如何にかかわらず、同じ場集った共存意識を持つことがキャンパスをいきいきとさせる源となる。様々な立場の人が共有する情報や場の体験を、より豊かなものへとサポートするため、ユニバーサルデザイン等に配慮した環境づくりが必要である。

## 1-2.理念の具現化に向けて

前項の3つの理念をサイン整備としての具現化に向けたポイントに整理します。

### 1 平和の風景づくり

(安らぎ、永続性のあるフォルムと自然要素との共生)

平和を想う  
契機としての風景

#### A. 静謐感

サインを眺めたときに日常の喧騒を一瞬忘れるかのような、静謐感あるたたずまいに配慮します。直接的な平和論から離れて、人々の一瞬のリセット感のなかに**安らぎ**を見いだすことを目的とします。

#### B. 恒久性

平和を想う、その風景づくりとしては時間経過に対する継続性や永続性が必要だと考えます。サインのフォルム、素材の**耐久性**はもとより、情報内容も変わるものと変わらないものの**棲み分けを図る**などおこない、継続性の高いサインシステム構築を目指します。

#### C. 自然との共生

自然から得られる安心と充足感は平和を想う基盤であると考えます。サイン整備に併せ、植栽など**自然要素との共生風景**をつくり出すことに配慮します。

### 2 こころの場所づくり

(文字、形で豊かさを表現)

大学を通した  
安心と明るい未来

#### A. 知による豊かさ

サインにおいても、知の象徴としての大学を表現することが必要です。格式張るのではなく、**知性を磨くことの先にある豊かさを表現**することを目指します。  
分かりやすさと同時に、分かることの喜びの創出に配慮します。

#### B. 安心による豊かさ

案内・誘導情報による安心感のもとより、安心して居られるキャンパス環境づくりに配慮します。老朽箇所の美化や照明の設置などを含めた総合的視点をもとに整備に取り組みます。

#### C. コミュニティの豊かさ

自然とのコントラストだけでなく、人の営みとの共存風景も重要です。サイン情報やその存在が人々のコミュニティ活性の共有資源として活かされるように心掛けます。

## 1-2.理念の具現化に向けて

## 3 対話の場づくり

(サイン整備に起因する環境整備)

回遊を促す拠点  
とルートづくり

## A.場の個性化

人々の滞留と移動を生むためには、自分が今、他でないこの場所にいるという認識を促すことが重要です。

サインシステムに則りながらも、周辺環境との調和や配置、筐体タイプの選択などで、設置される所に応じた場の個性化に貢献します。

## B.環境整備との協調

滞留にはサイン情報だけでなく、溜まり場としての環境整備が必要です。当ガイドラインでは、サイン整備の延長に考えられる案を例示することで、将来の環境整備イメージづくりの一助となることを目指します。

## C.ルート開発

回遊の手がかりとなるようなルートの設定とその訴求をおこなうことで、キャンパスの骨格の明確化を図ります。

## 4 共存の環境づくり

(ユニバーサルデザインによる整備)

キャンパス  
共有意識の強化

## A.ストーリーの共有

場所を物理的に共有するだけでなく、キャンパスに関わる歴史や逸話などをコミュニケーション資源として共有することが望まれます。そのためにも話題性を意識したキャンパス整備に取り組みます。

## B.多様なことがらをつなぐ

学内には外国からの留学生や来訪者、身体的な障害を持つ人なども存在します。**あらゆる人に共有されるサイン**を目指したデザインをおこないます。

## C.集いの風景

自然とのコントラストだけでなく、人の営みとの共存風景も重要です。サイン情報やその存在が人々のコミュニティ活性の共有資源として活かされるように心掛けます。

### 1-3. サイン整備基本構想

上位理念とその具現化へ向けた整理をもとに、整備基本構想の要点をまとめます。

#### I—広島大学独自のサインシステム

広島大学ならではの整備理念を柱に、地勢的特性や人々の行動特性に基づいた効果的で特徴あるサインシステムとする。

#### II—継続的整備推進

当ガイドラインに基づいたサイン整備の具体的なステップ、整備ボリュームタイプを設定し、継続的整備に備える。

#### III—周辺環境整備との連携

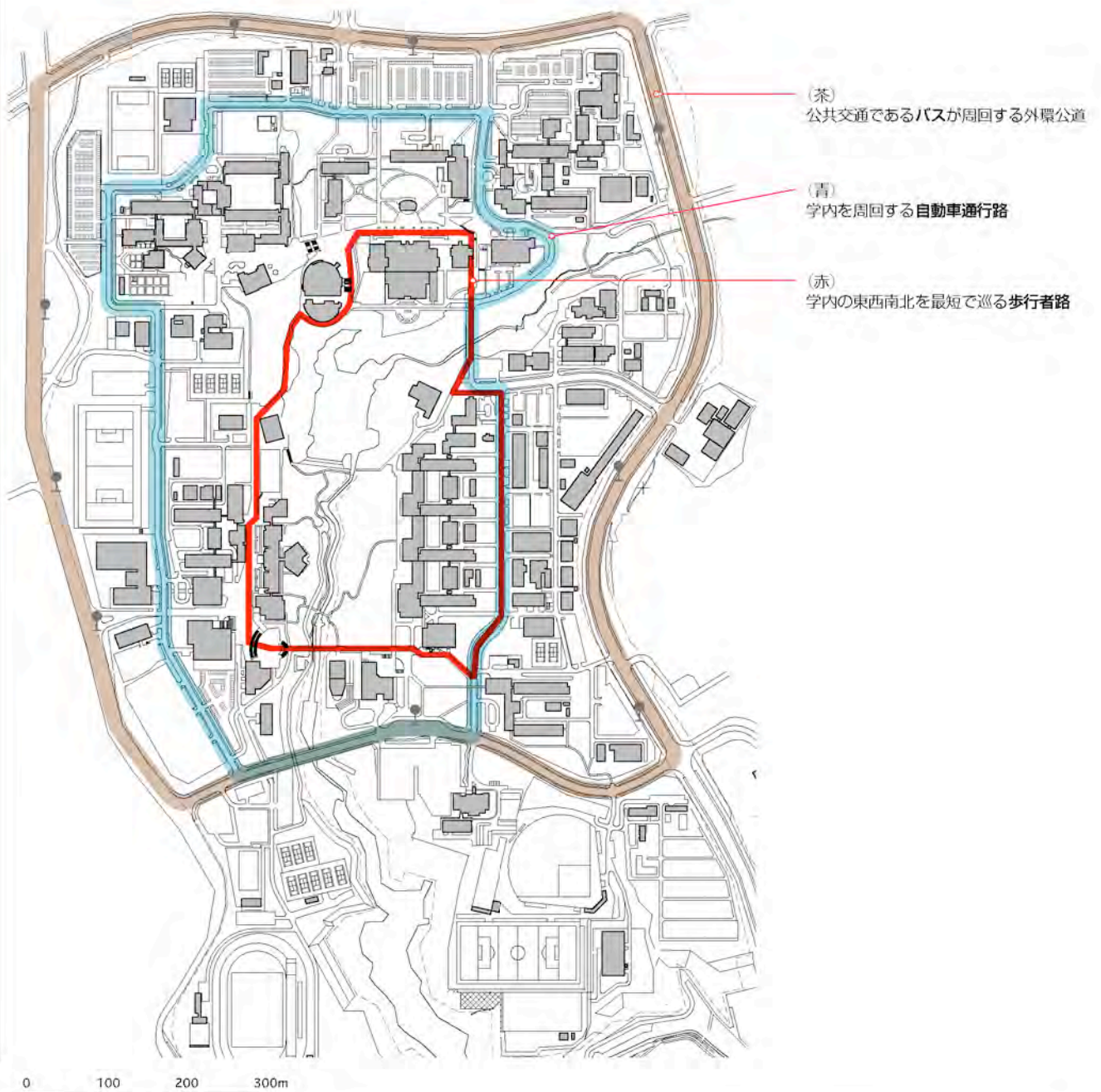
快適で安心して歩けるキャンパスを目指し、案内誘導にとどまらぬ憩いの場づくりや照明設備の充実などの環境整備を取り込みながら計画推進をおこなう。

## 2.広島大学独自のサインシステム

案内誘導のシステムにおいても当キャンパスの特徴を活かしたものにするために考察をおこないます。

### 2-1.周回ループの設定と意義

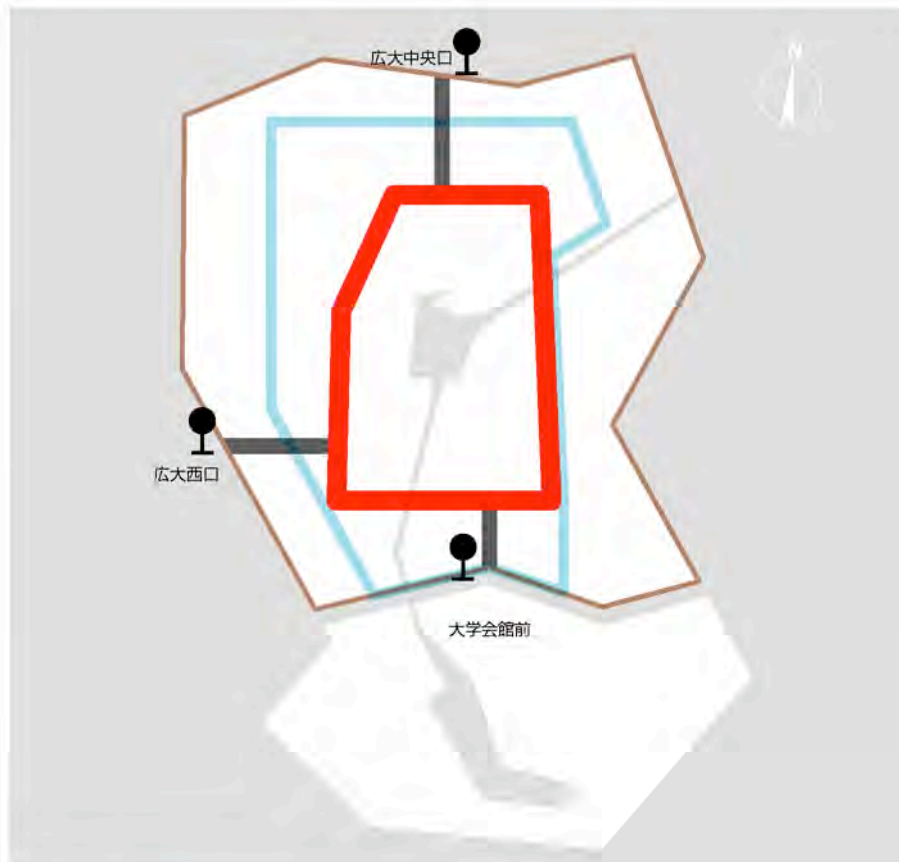
ぶどう池を中心に施設配置がなされ、さらにバス通りが取り囲むという構造により、強い正面性を持たない反面、下図で示す**三つの環状路が存在する**という当キャンパスならではの特徴を生みだしています。この環状路構造を案内誘導システムの基盤とすることで、個性化を図るとともに実地にも即したものとすることを目指します。





## 2-2.各周回ループの名称と特徴

三つの環状路をサインシステムに活かすため、それぞれの位置づけを示します。



周  
回  
ル  
ー  
プ

### **Main Loop** メインループ

サインによる誘導の起点となる環状路。このループ上から様々な場所へ案内、誘導します。またこのループを訴求することで広いキャンパス空間を把握しやすくします。

### **Sub Loop** サブループ

メインループを補完し、各施設への案内誘導をより細分化しておこないます。

### **Outside Loop** 外環公道

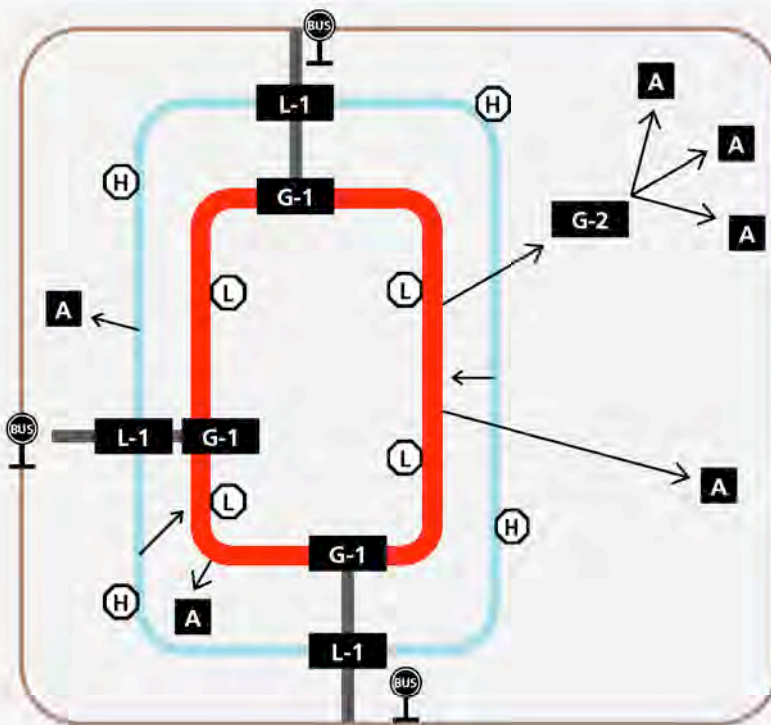
キャンパスへの主たる公共交通手段であるバスの循環道。アプローチの起点として位置づけます。

### **Main Approach** 主要アプローチ道

外部からメインルートへつながる主要な道。特に利用率の高い3本(広大中央口、広大西口、大学会館前)からメインループへの動線に絞って訴求をおこなうことで、環状路との位置関係が直感的に分かるようにします。

## 2-2. 歩行者周回ループ(メインループ)を起点とした案内誘導方式

環状路構造を活かしたサイン設置のため、基本的なサイン種別とその配置について模式的に示します。5分類9種類のサインとすることで(数少ないサイン)で効率的に案内誘導します。



- メインループ
- サブループ
- アプローチ道
- 外環公道
- ループ以外の学内路

設置するサイン	
<span style="color: red;">■</span> <b>メインループ</b> 全ての施設への案内誘導の起点となる歩行者道	L-1 L-3 (L)
<span style="color: red;">■</span> <b>メインループとアプローチ道交差点</b> 大拠点として総合案内をおこなう箇所	G-1
<span style="color: cyan;">■</span> <b>サブループ</b> メインループの案内誘導を補充する	(H)
<span style="color: cyan;">■</span> <b>サブループとアプローチ道交差点</b> メインループによらない施設への誘導	L-1
<span style="color: brown;">■</span> <b>外環公道</b> アプローチの起点としてのゲート化	A
<span style="color: black;">■</span> <b>ループ以外の道</b> メインループの誘導情報をより細分化して補充する	L-4 L-2
<span style="color: black;">■</span> <b>各学部系施設群の出入口</b> 学部系施設群内を総合的に案内する	G-2
<span style="color: black;">■</span> <b>施設、場所</b> 施設、場所名の明記	A

### サインの種類と役割

- G** Guide Sign **案内サイン**
  - G-1 総合案内
  - G-2 各学部系施設案内
- L** Lead Sign **誘導サイン**
  - L-1 学部系施設誘導
  - L-2 学部内施設誘導
  - L-3 非学部系施設誘導
  - L-4 非学部系施設誘導(可変)

※(可変) 名前が変化しやすい施設
- A** Appellation Sign **記名サイン**  
施設、場所の記名
- C** Caution Sign **注意/禁止サイン**  
注意/禁止を促す
- (L)** Loop Sign **ループサイン**  
メインループの顕在化
- (H)** Help Sign **おたすけサイン**  
ループから離れた時の救済情報

### 2-3. 誘導情報の階層化

サインに表示する情報は適切な階層化と整理をおこない、様々なレベルの情報混在を防ぐことが必要です。当ガイドラインで設定する具体的階層分けは次頁以降に記すとして、ここではその視点を示します。

#### 階層化の視点—1

##### 大学らしい情報アピランスを目指して

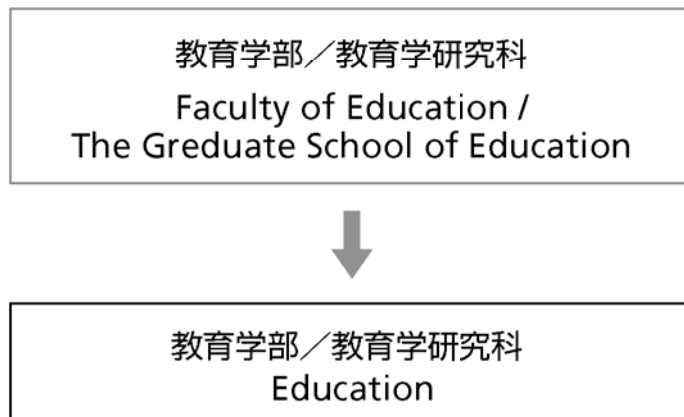
分かりやすい情報表示のためには、単純に部局別を基準にするのではなく、人々の行動実態に即した階層化が必要と考えます。

総合大学としてはまず、学部・研究科をメインに訴求することで大まかな情報基盤をつくり、さらに図書館、関連研究施設、福利施設等の情報を相対的に配してゆくことが相応しいと考えます。

当ガイドラインではそれぞれ「学部系施設」「非学部系施設」として大きく二つに分けることを階層化の起点にしています。

#### ○学部/研究科名の欧文表記

名称の厳密性よりは**視認性を優先し、最小の英単語数**で学部/研究科別を表現します。



#### 階層化の視点—2

##### 周回ルート(メインループ)を際立たせるために

前述のとおり、周回ルートを起点とした情報展開が当キャンパスの構造に相応しいと考えます。周回ルート上の情報が煩雑になるとルート自体の輪郭が薄れ、ひいてはサインシステムの基盤が脆弱化するおそれがあります。

よって、周回ルート上の情報をいわゆる「**大見出し**」レベルにそろえることで回遊者の混乱を防ぎつつ、ルート自体の訴求度が高まるよう、階層化をおこないます。

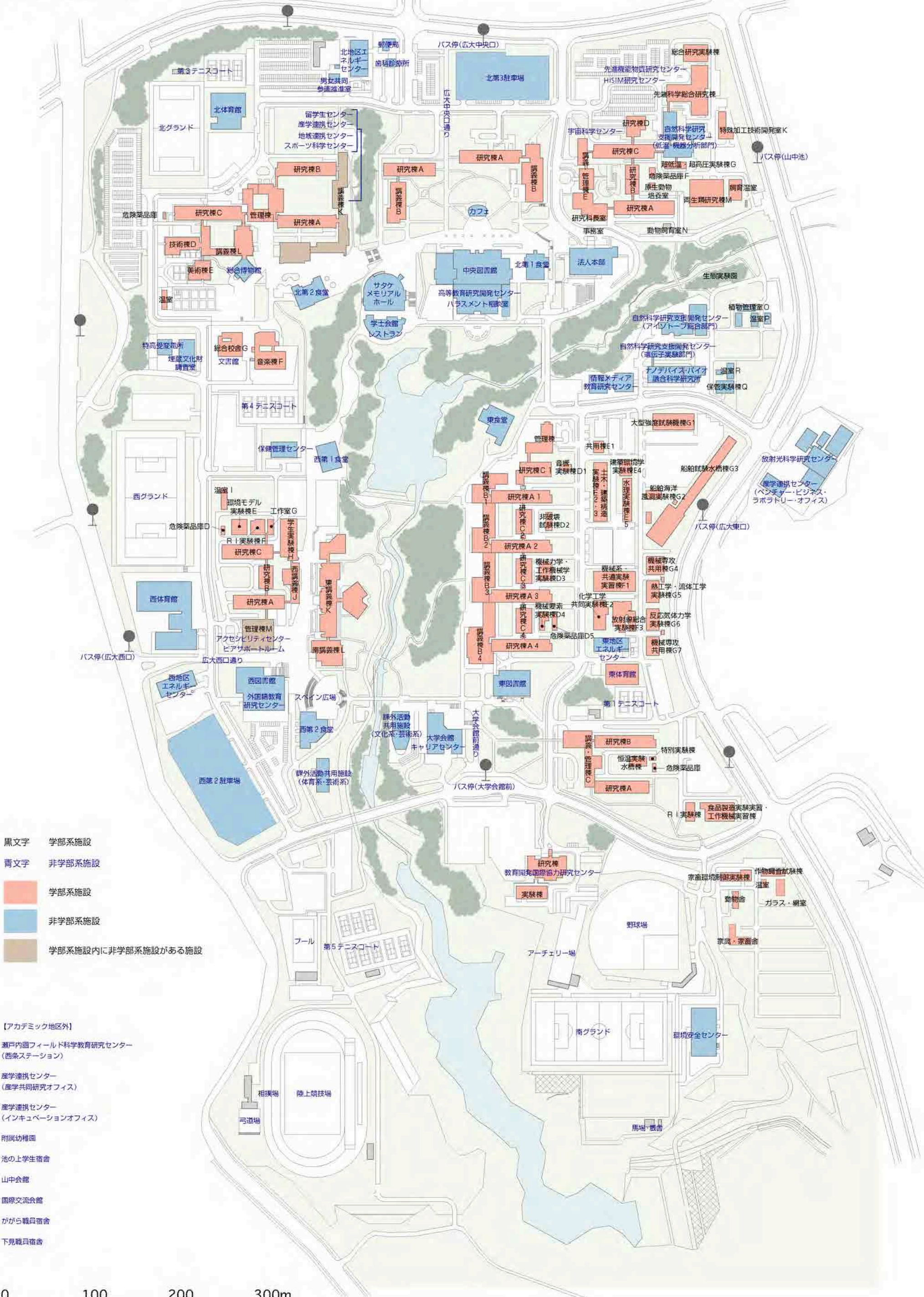
#### 学部系施設

教育学部、文学部など、学部を含む学術系の施設。付属実験棟や大学院を含む。

#### 非学部系施設

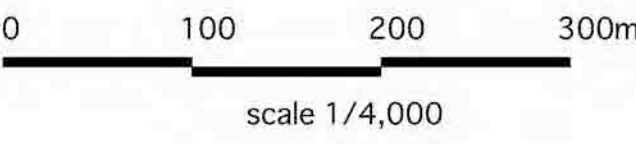
本部、福利施設、学生会館などの支援施設のほか、図書館も特定の学部系に属さないものとして当分類とする。

東広島キャンパス配置図



- 黒文字 学部系施設
- 青文字 非学部系施設
- オレンジ色 学部系施設
- 青色 非学部系施設
- 茶色 学部系施設内に非学部系施設がある施設

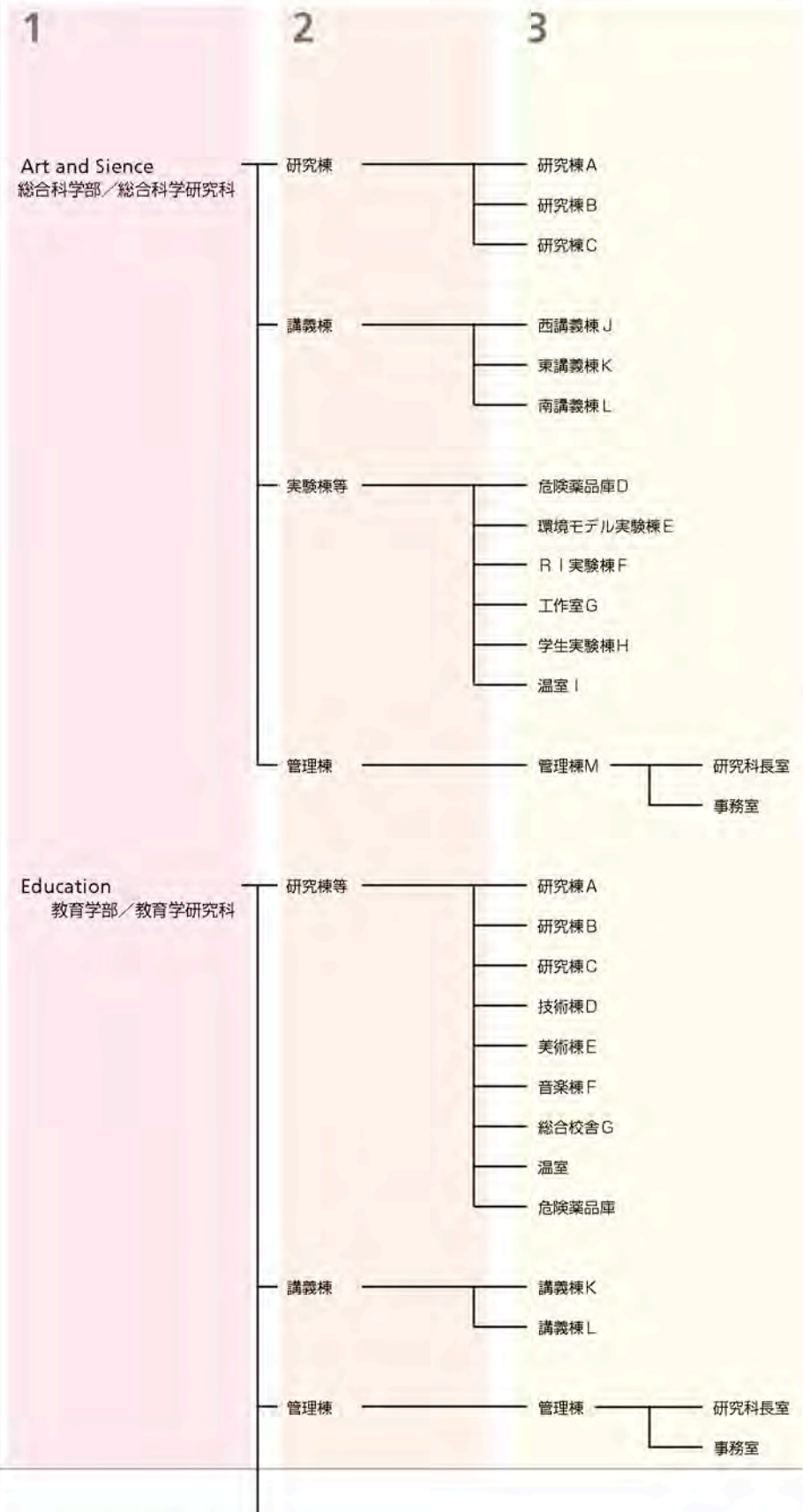
- 【アカデミック地区外】
- 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター (西条ステーション)
  - 産学連携センター (産学共同研究オフィス)
  - 産学連携センター (インキュベーションオフィス)
  - 附属幼稚園
  - 池の大学生宿舎
  - 山中会館
  - 国際交流会館
  - がらが職員宿舎
  - 下見職員宿舎



## 2-4.誘導情報の階層化 — 表示名リスト

下記以外の施設／場所名の通りに表示しなければなりません。個人的解釈での省略、名前の変更を禁じます。

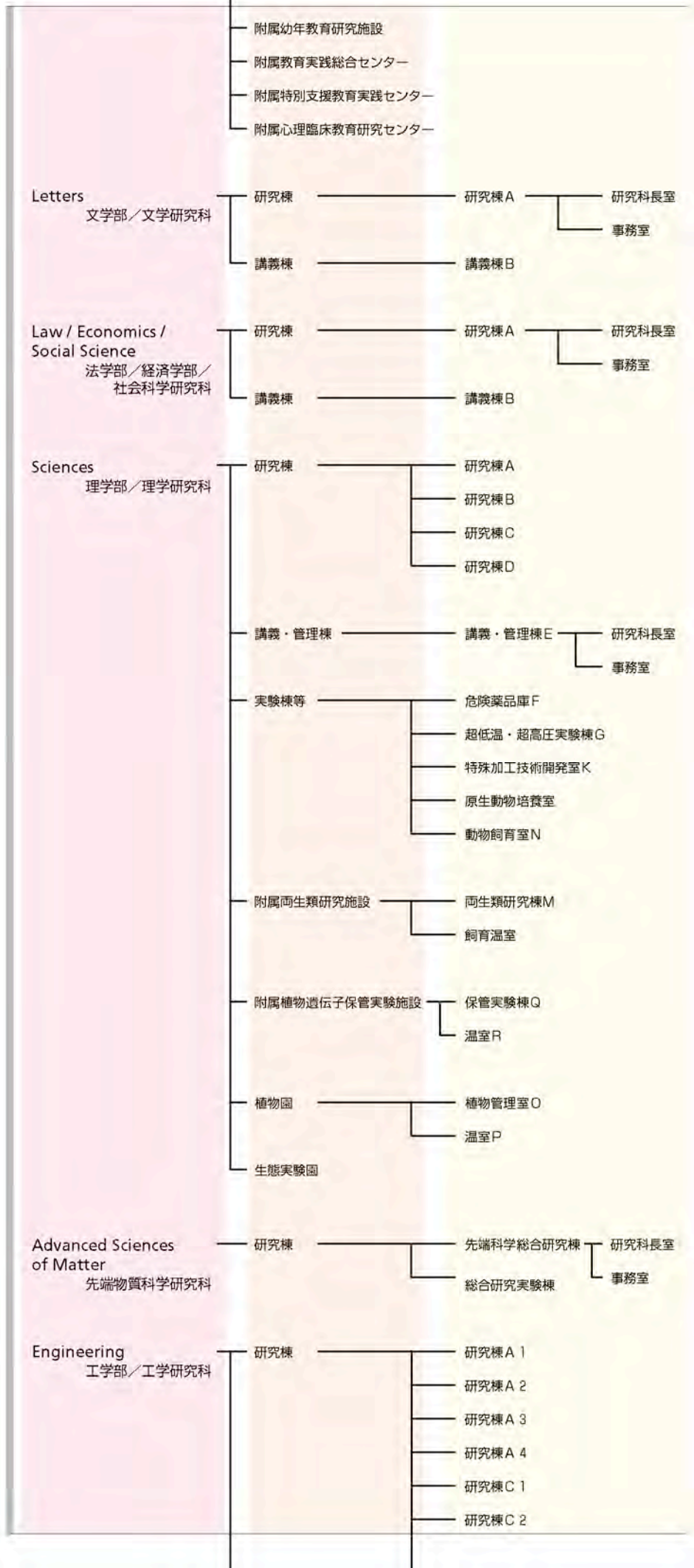
### 学部系施設群

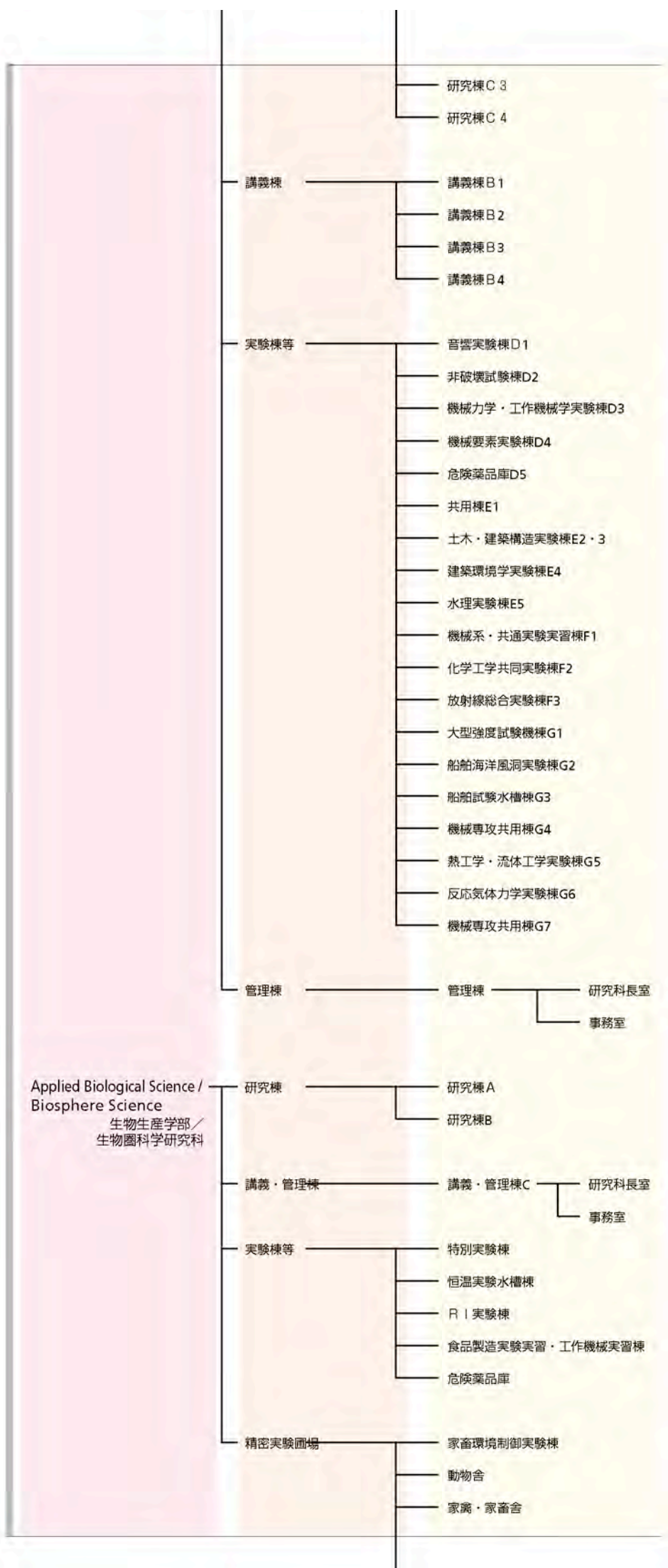


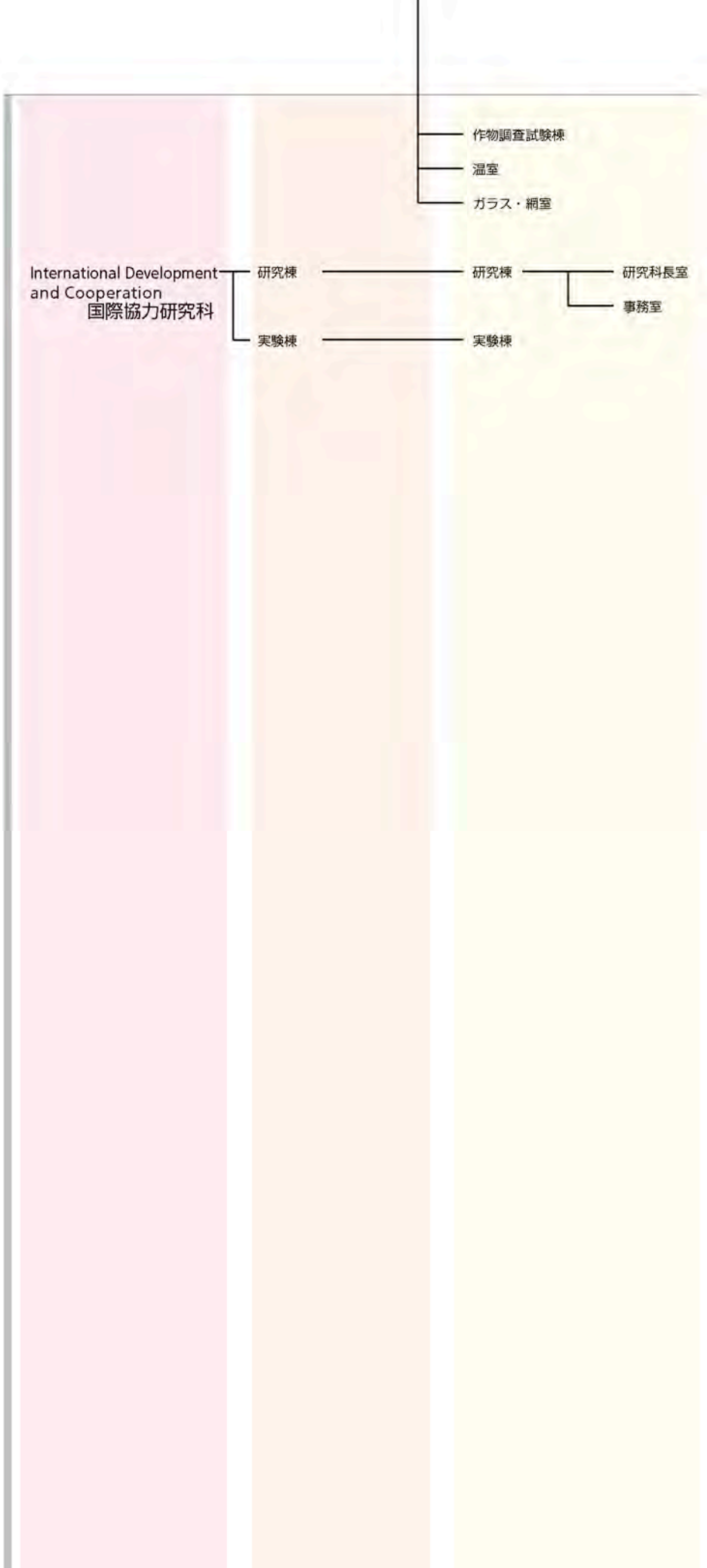
**1**  
周回ループ(メインループ)上で誘導される建物群の名称

**2**  
各施設表記に先立つ建物種別名称

**3**  
各施設名称









非学部／研究科施設

1

- 法人本部  
Administration Bureau
- 中央図書館  
Central Library
- サタケメモリアルホール  
Satake Memorial Hall
- 学生会館  
Faculty Club
- 大学会館  
University Hall

2

学内各種施設

【教育研究施設】

- ナノデバイス・バイオ融合科学研究所  
Research Center for Nanodevices and Systems
- 高等教育研究開発センター  
Research Institute for Higher Education
- 情報メディア教育研究センター  
Information Media Center
- 放射光科学研究センター  
Hiroshima Synchrotron Radiation Center
- 自然科学研究支援開発センター  
(低温・機器分析部門)  
Natural Science Center for Basic Research and Development (Life Science Department)
- 自然科学研究支援開発センター  
(アイソトープ総合部門)  
Natural Science Center for Basic Research and Development (Radioisotope Department)
- 自然科学研究支援開発センター  
(遺伝子実験部門)  
Natural Science Center for Basic Research and Development (Materials Science Department)
- 産学連携センター  
(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー・オフィス)  
Venture Business Laboratory
- 男女共同参画推進室
- 西図書館  
West Library
- 東図書館  
East Library
- 総合博物館  
Hiroshima University Museum

【福利・課外活動施設等】

- 保健管理センター  
Health Service Center
- 北第1食堂  
North Welfare Center #1
- 北第2食堂  
North Welfare Center #2
- カフェ  
Cafe
- レストラン  
Restaurant
- 西第1食堂  
West Welfare Center #1
- 西第2食堂  
West Welfare Center #2
- 東食堂  
East Welfare Center
- 北体育館  
North Gymnasium
- 西体育館  
West Gymnasium
- 東体育館  
East Gymnasium

3

- 留学生センター
- 産学連携センター
- 教育開発国際協力研究センター
- 環境安全センター
- 地域連携センター
- 宇宙科学センター
- 外国語教育研究センター
- 文書館
- スポーツ科学センター
- HiSIM研究センター
- 先進機能物質研究センター
- 埋蔵文化財調査室

1

周回ループ(メインループ)上の全域で誘導される各施設名称

2

周回ループ(メインループ)上、施設から一定の距離内で誘導される各施設名称

3

周回ループ(メインループ)によらず、必要に応じて誘導される各施設名称

- 馬場・厩舎
- 相撲場
- 弓道場
- スペイン広場
- 歯科診療所
- 特高受変電所
- 北地区エネルギーセンター
- 西地区エネルギーセンター
- 東地区エネルギーセンター

【アカデミック地区外】

- 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター  
(西条ステーション)
- 産学連携センター  
(産学共同研究オフィス)
- 産学連携センター  
(インキュベーションオフィス)
- 附属幼稚園
- 池の上学生宿舎
- 山中会館
- 国際交流会館
- ががら職員宿舎
- 下見職員宿舎

【その他】

郵便局

- 北第3駐車場  
North Parking #3
- 西第2駐車場  
West Parking #3
- バス停(広大中央口)  
Bus stop (Hirodai-chuoguchi)
- バス停(広大西口)  
Bus stop (Hirodai-nishiguchi)
- バス停(大学会館前)  
Bus stop (Daigakuikaikanmae)
- バス停(広大東口)  
Bus stop (Hirodai-higashiguchi)
- バス停(山中池)  
Bus stop (Yamanaka-ike)
- 広大中央口通り  
Hirodai-chuoguchi Street
- 広大西口通り  
Hirodai-nishiguchi Street
- 大学会館前通り  
Daigakuikaikanmae Street

### 3.継続的整備推進

早急に全てのサイン整備をおこなうのではなく、整備計画自体も時間をかけて継続的に必要箇所を決めておこなうことで、片寄りがなく現実になじみのよいものを目指します。整備順序は下記を参照し、訴求効率の高い整備を目指します。



#### Phase 1 (顔づくり)

メインアプローチ整備に併せたサイン整備。ゲートサイン、総合案内サイン、誘導サインといった主たる要素をひと通り具現化することで、以後の整備のイメージ訴求につなげる。

- ・ゲートサイン(アプローチ路端部)
- ・総合案内サイン(中央図書館前)
- ・誘導サイン(車道交差点付近)

#### Phase 2 (顔づくり)

Phase 1で具現化されたサインの風景をより拡がりを持って強化すると同時に、東西施設への誘導を充実させる。

- ・誘導サイン(車道沿い)

#### Phase 3 (骨格づくり)

Phase 1~2でキャンパスの顔づくりをおこなった後、サインネットワークの基盤となる周回ループの整備をおこなう。

- ・周回ループサイン

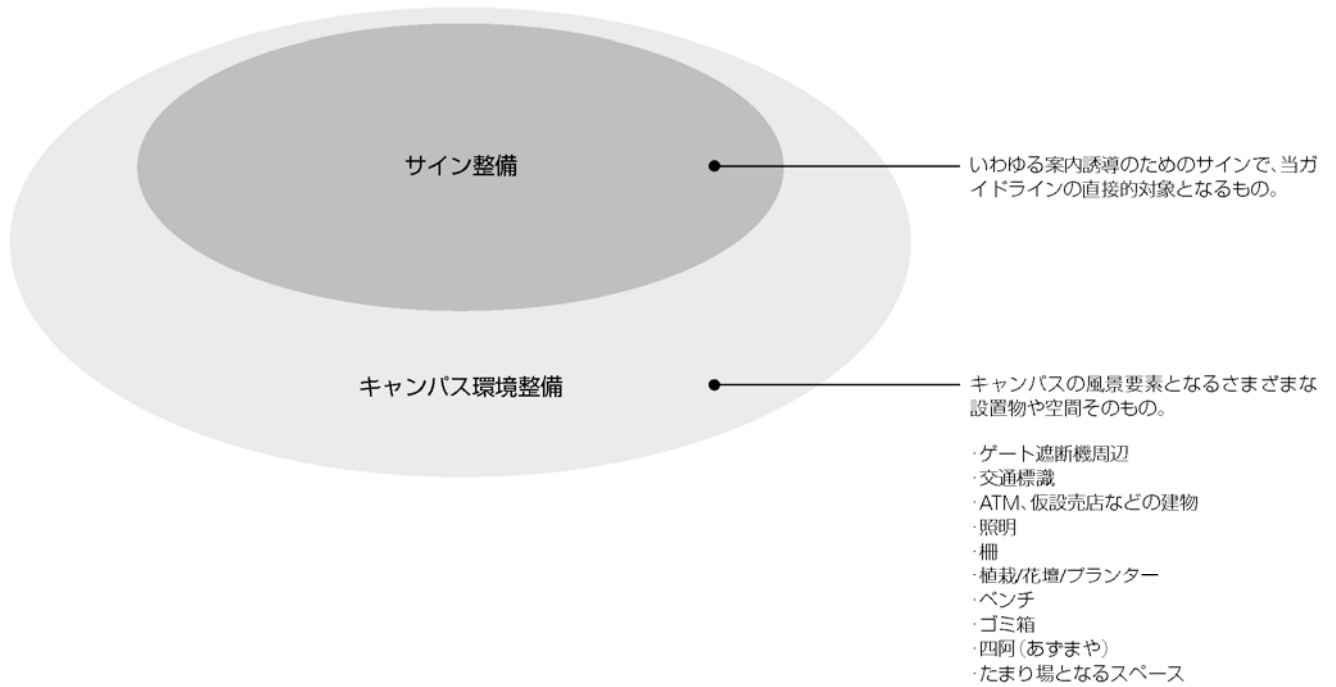
#### Phase 4 (拠点づくり)

Phase 3での骨格を整備の後、各拠点となるサイン整備を臨機応変におこなう。

- ・総合案内サイン(西口/学生会館前)
- ・学部系施設案内/誘導サイン
- ・非学部系施設案内/誘導サイン
- ・記名サイン
- ・注意/警告サイン

#### 4.周辺環境整備との連携

サインが効果的に機能するには、周辺の環境美化や拠点化が密接に関わります。当ガイドラインで示すサイン整備も、安全で快適なキャンパスづくりを目指した環境整備の一環として位置づけられます。



サイン整備は当ガイドラインに基づいて統一的におこなわれるものですが、環境整備に関しては整備場所や時期によってそれぞれの与件を考慮すべきと思われます。

その場合でも、サインを包含する環境整備として方向や程度に極端な違いを生じないように配慮することが必要です。整備の理念やコンセプトを共有するためにも、当ガイドラインを役立ててください。

---

# 第IV章 基本デザイン

## 第IV章 基本デザイン

1.基本デザイン対象と位置づけ	24
2.デザインコンセプト	25
3.デザイン共通事項	26
4.基本デザイン対象のラインナップ	29
5.案内サイン	30
6.誘導サイン	32
7.記名サイン	36
8.禁止/注意サイン	39
9.周回ループサイン	41
10.おたすけサイン	42

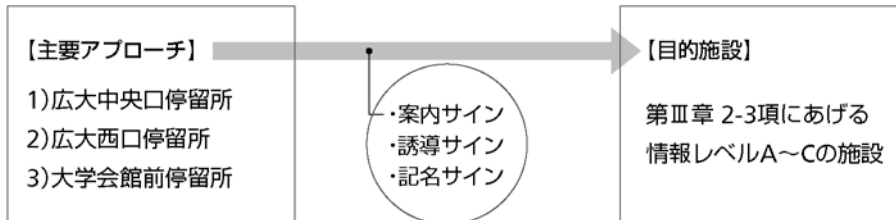
---

## 1.基本デザイン対象と位置づけ

ガイドラインにおけるサインデザインの対象とその位置づけを示します。

### 1-1.デザイン対象

ガイドラインではサイン整備の概要を俯瞰することを重視し、下記の主要アプローチ路から目的施設までの案内誘導に必要な最小アイテムをデザインの基本対象とします。



### 1-2.基本デザインの位置づけ

基本デザインはデザインコンセプト、筐体デザインのあり方、グラフィックデザイン上の配慮を総合的に方向づけるものです。項目によっては整備時期や箇所によって別途再考が必要になります。

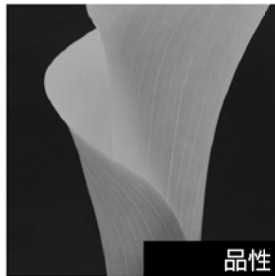
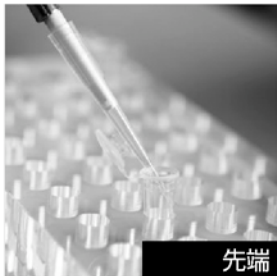
デザインコンセプト	
ガイドライン自体の改修をおこなわない限り、あらゆるキャンパスサイン整備に対して効力を発揮する。	
<b>筐体デザイン</b> 基本デザインで取り上げる筐体に関しては踏襲する。 新たな規格筐体が必要な場合はコンセプトに基づいて別途検討。	<b>グラフィックデザイン</b> 字体、レイアウト、色づかひの基本形は遵守。 新規表示項目が必要な場合はレイアウトに関してのみ別途検討。

2.デザインコンセプト

## 知性の風景

- 歴史ある学問の場としての知性を表現し、豊かな自然を背景に自律する。
- 学問の普遍性と包容力を表現したたたすまい。
- 陰影に映え、存在感のある物性。

コンセプト具現のキーワード

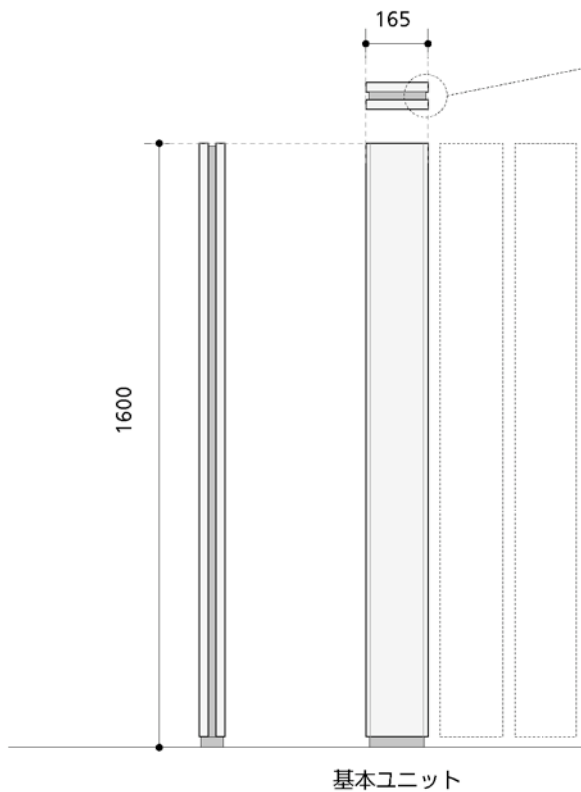


### 3.デザイン共通事項

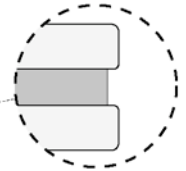
#### 3-1.筐体デザイン

##### 筐体の基本

知性ある佇まいが感じられるように、細長でシャープな印象のある表示面を基本単位として考えます。  
情報量に応じて単位ユニットを増減させ、フレキシブル且つ秩序を持った情報面をつくります。

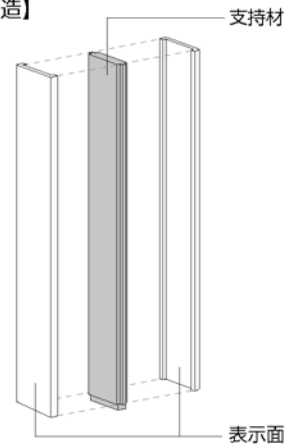


【側面】



シャープでありながらも、万一の衝突の際のけがの防止や優しい陰影を持たせるため、出隅には面取りを施す。

【構造】

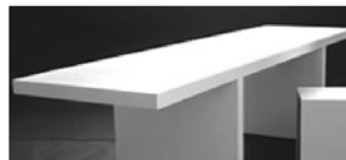


支持部材と表示部材を明確にし、修繕や表示内容の変更などが容易なアセンブリーを考慮した構造にします。

##### 素材

表示面\_メタクリル樹脂人造大理石(※1)

- ・情報面としての平滑性にすぐれる
- ・加工が容易
- ・しっとりとした重みのある版面づくりが可能
- ・屋外での耐久性にすぐれ、サインの印象を長い間保てる
- ・一般流通材としての入手の容易さと質の均一性



(※1)人造大理石の環境性

ホルムアルデヒドなどの有害物質を発生せず、いわゆる環境ホルモンと呼ばれる物質も含有しない材料選択ができる。また、セメントへのリサイクルなども進む。

支持材\_亜鉛メッキスチール材

- ・スチールのわりに冷たすぎない印象
- ・一般的な素地仕上でありながら独特の風合いを持つ
- ・支持材として目立たない控えめな存在感
- ・屋外における耐久性に比較的すぐれる

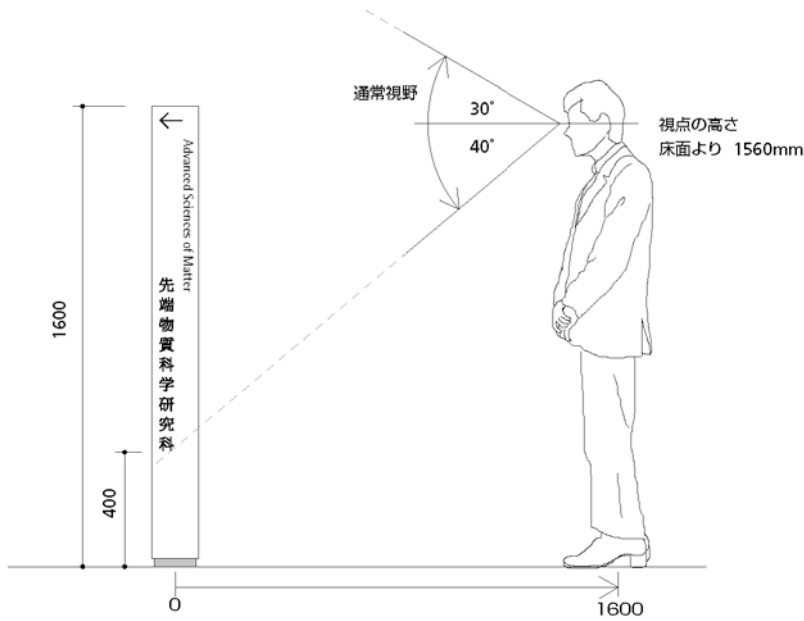




### 3-2.グラフィックデザイン

#### 視認性の定義

基本ユニットのサイズは背後の風景を阻害しないため、標準的な見上げ視野以下でおさめるよう配慮します。しかし視認性を考慮し、床面から400mm以下に表示することを禁じます。



#### 表記言語

和文/欧文併記を基本とします。欧文を和文の補足として扱うのではなく、留学生も多い大学のキャンパスとしてのグローバルなイメージづくりにも貢献するサイン版面デザインを目指します。

#### VIマニュアルとのルールの棲み分け

VIマニュアルではサイン(看板)デザインへの言及もふくまれています。ここでは実際のキャンパスでの物理的案内誘導に最適であることを優先し、以下の項目に関して新たなルールづけをおこないます。

	VIマニュアル	当ガイドライン	
サインの下地		白	
テーマカラー	広大グリーン	無彩色※1	
和文字体	新ゴ-R(モリサワ)	見出系 ※2	ナウMM(リョービ)
		文章系	新ゴ-R(モリサワ)
欧文字体	Rotis Semi Sans 65 Bold(Agfa)	Rotis Semi Sans Regular(Agfa)	

※1)無彩色

案内誘導上、色が特別の意味を持たないように、全体を貫くテーマカラーは用いない。

※2)見出系字体の追加

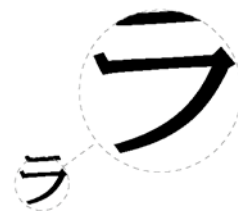
物理的に大きなサイン面での文字配置を考慮し、新たに見出系として字体を追加する。

## 和文字体(見出系)

## 広島大学のガイドライン

ナウ MM

明朝体とゴシック体の中間的な位置づけの字体で、文字数が少ない場合においても判別性が高く、欧文字体のRotis Semi Sansとの造形的相性が良い。



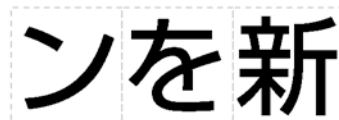
明朝体ほど細い部分がなく、ゴシック体ほど単純でない造形は一字ごとの判別性にすぐれるので、特に見出系の字体に適する。

## 和文字体(文章系)

ガイドラインは案内誘導サインを新規設置または改修する際の物理的、概念的共通指標を示すこと

新ゴ-R

漢字、ひらがな共に文字の外形が比較的揃っているため、長文におけるおさまりが良い。



長文においては一字ごとの文字造形よりも全体として揃っていることが重要。

## 欧文字体

## Hiroshima University

Rotis Semi Sans Regular

ナウMM同様、セリフ体とサンセリフ体の中間的な位置を狙って作成された字体。一字ごとの横幅が狭めなので、単語として長くなりがちな日本語のローマ字表記などに適する。



シンプルなお外観ながら、抑揚のある造形で、判読性が高い。

4.基本デザイン対象サインのラインナップ



**G Guide**  
案内サイン

**G-1** 総合案内サイン

→P31 参照

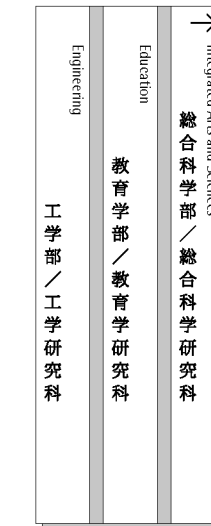


**G-2** 学部内施設案内サイン

→P31 参照

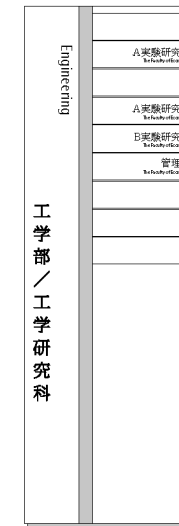


**L Lead**  
誘導サイン



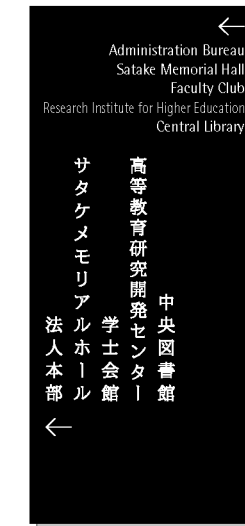
**L-1** 学部系施設誘導サイン  
(複合誘導)

→P33 参照



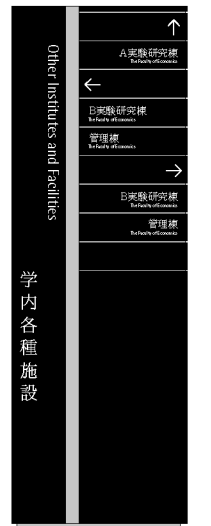
**L-2** 学部内施設  
誘導サイン

→P34 参照



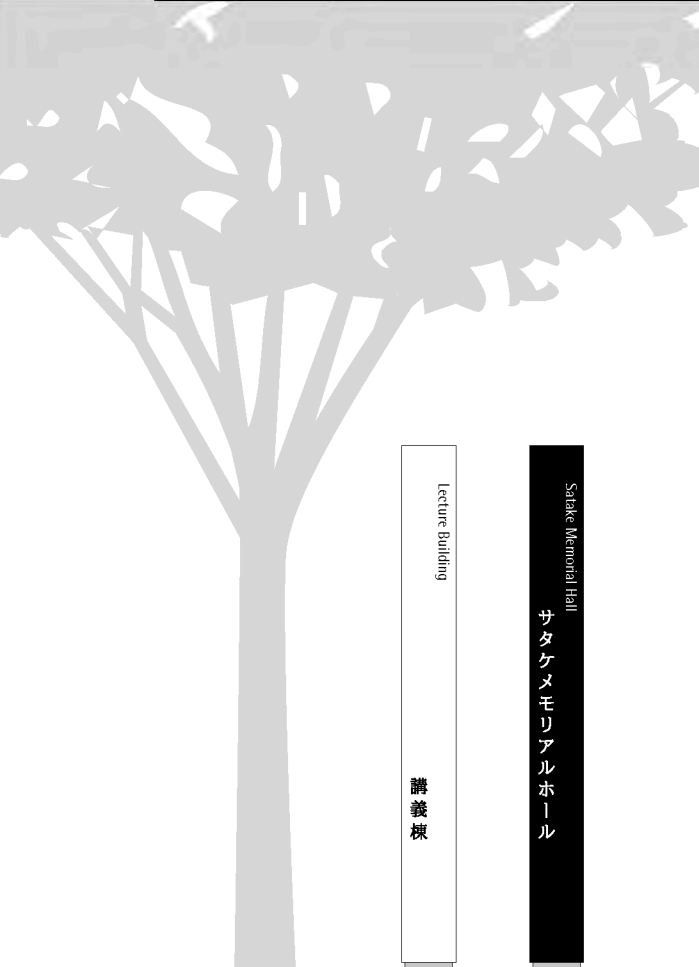
**L-3** 非学部系施設  
誘導サイン

→P35 参照



**L-4** 例外非学部系施設  
誘導サイン

→P35 参照



**A Appellation**  
記名サイン

**A-1** 施設記名サイン

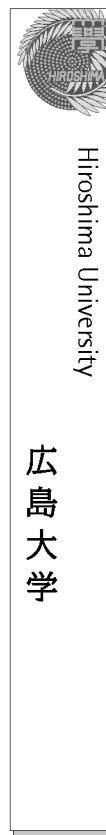
→P36 参照

**A-2** パーキングサイン

→P37 参照

**A-3** ゲートサイン

→P37 参照



**C Caution**  
禁止 / 注意サイン

**C-1** 禁止サイン

→P40 参照

**C-2** 注意サイン

→P40 参照



**L Loop Sign**  
ループサイン

**L** 周回ループサイン

→P41 参照



**H Help Sign**  
おたすけサイン

**H** おたすけサイン

→P42 参照



## 5.案内サイン

### 5-1.案内サインの種類

マップなどの図解をとめない、一定のエリアの情報をまとめて表示する案内サインには次の二種類があります。

定義、特長	
<b>G-1</b> 総合案内サイン	キャンパス全体を理解できる情報の表示
<b>G-2</b> 学部内施設案内サイン	研究科内の棟や施設などが理解できる情報の表示

### 5-2.案内サイン共通事項

**字体** 4-2項の表記言語に則ります。施設名一覧は文章系とし、和文は「新ゴ-R」を用意します。

**マップ** 案内サインで使用するマップ次の4種類に分けられます。それ以外のものは使用しません。

定義、特長	
東広島広域マップ	東広島キャンパス全体を理解できる地図
アカデミック地区マップ	アカデミック地区が理解できる地図
学部内施設マップ	アカデミック地区マップから拡大し、学部系施設が理解できる地図
周回ループマップ	周回ループと現在地が理解できる地図

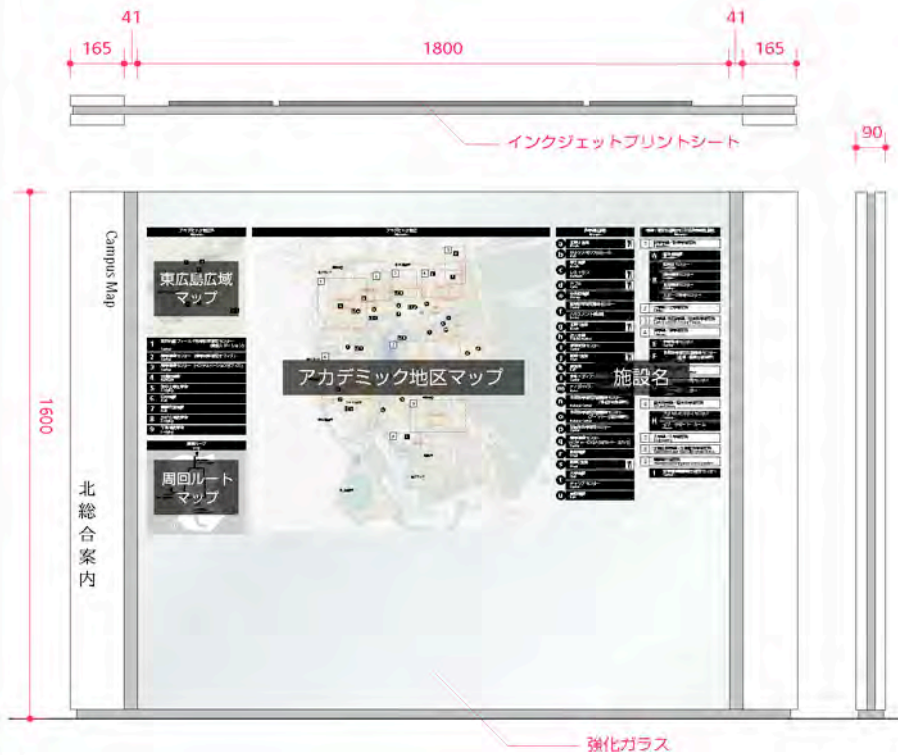
**筐体** 案内サインは大学を案内する顔でありながら、情報の変化に対応しなければなりません。見栄えがよく、本格的であると同時に情報の更新を同時に狙う必要があります。そこで、基本ユニットと強化ガラスの組み合わせの筐体にします。

**素材** マップ、施設の案内は強化ガラス裏面よりインクジェットシート貼り。(※1)

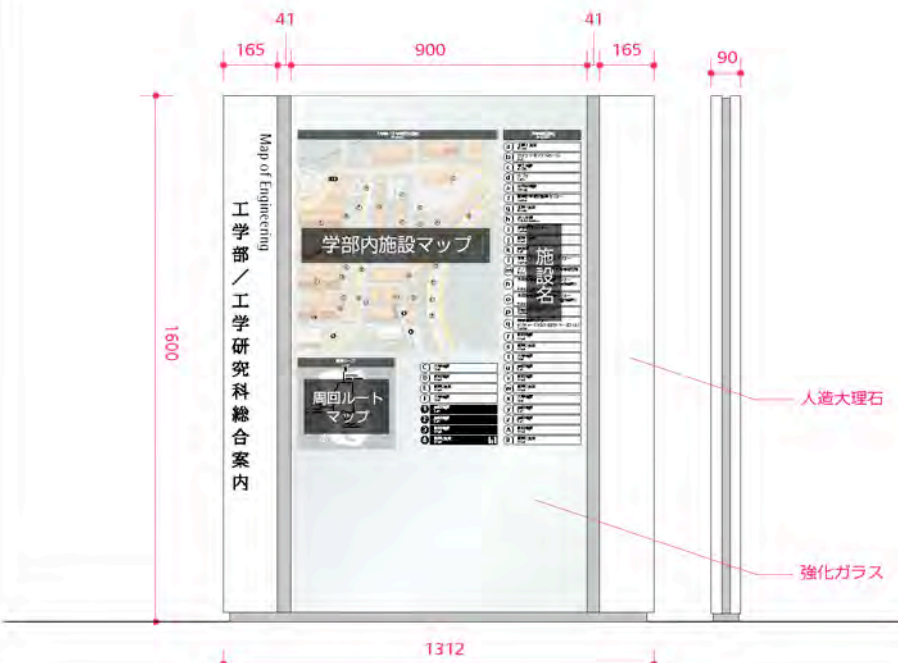
(※1)軽微な変更の場合  
強化ガラス板の表面から、インクジェットシート貼りに対応する。

5-3.案内サイン姿図

G-1 総合案内サイン



G-2 学部内施設案内サイン



## 6.誘導サイン

### 6-1.誘導サインの種類

施設方向を矢印で誘導するサインは以下の三種類があります。

	定義、特長
<b>L-1</b> 学部系施設誘導サイン	学部 / 研究科内の棟や施設方向を表示
<b>L-2</b> 学部内誘導サイン	特定を誘導
<b>L-3</b> 非学部系施設誘導サイン	学部 / 研究科以外の共有施設方向を表示
<b>L-4</b> 例外非学部系施設誘導サイン	学部 / 研究科以外の共有施設方向を表示

### 6-2.誘導サイン共通事項

「知性の風景」コンセプトにより、色や絵文字の仕様を避け、実質的な文字列による誘導をおこなう。また、欧文を上部に配置することで記号認識的な効果(※1)をねらう。



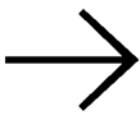
(※1)

欧文を記号的に認識する効果のため「Faculty of」等は省略する。

**字体** 4-2項の表記言語に則ります。施設名一覧は文章系とし、和文は「新ゴ-R」を用意します。

**矢印** 矢印は「← ↑ →」の3方向のみ使用します。  
使用する矢印は広大オリジナル矢印を使用します。

広大オリジナル矢印

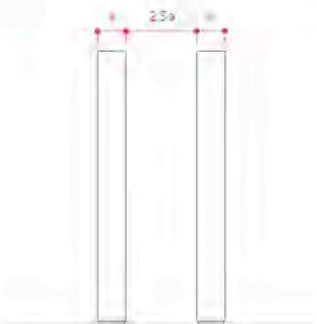
指示方向	左へ	前進・直進	右へ
種類			

矢印のレイアウトは各誘導サインにしたがって配置する。

**筐体配置** 筐体が独立しあって設置する場合は、2.5a (※2) 分間隔 (102mm) をあけて設置する。

(※2)

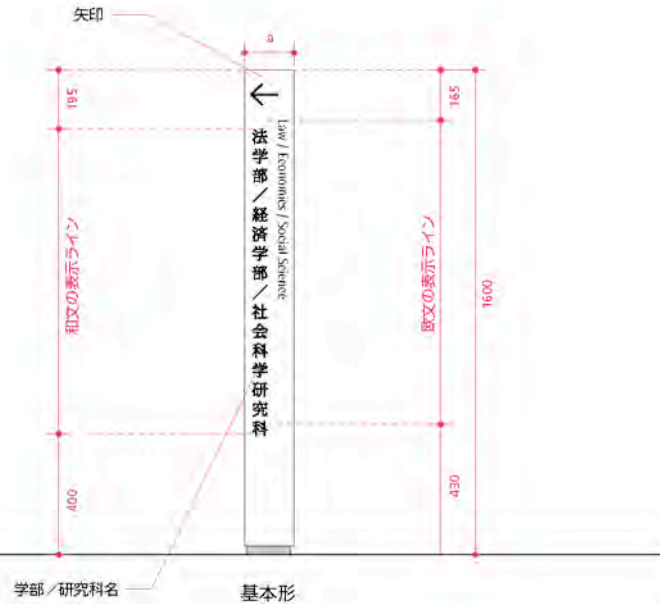
a=165mm(基本ユニット幅)



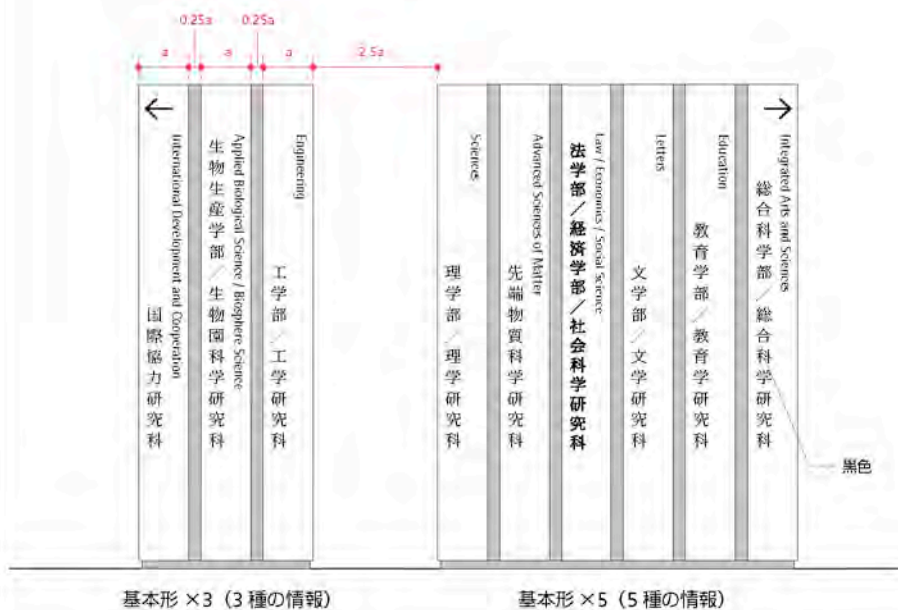
6-3.誘導サイン姿図

L-1 学部施設誘導サイン

学部/研究科はそれぞれの自律性を主張するため版面を共有しない。(1学科=1ユニット)



基本形応用



矢印について

矢印のレイアウトは下図。複合誘導は矢印の方向の角にのみ使用する。「↑」の場合は左右の矢印の状況で判断する。

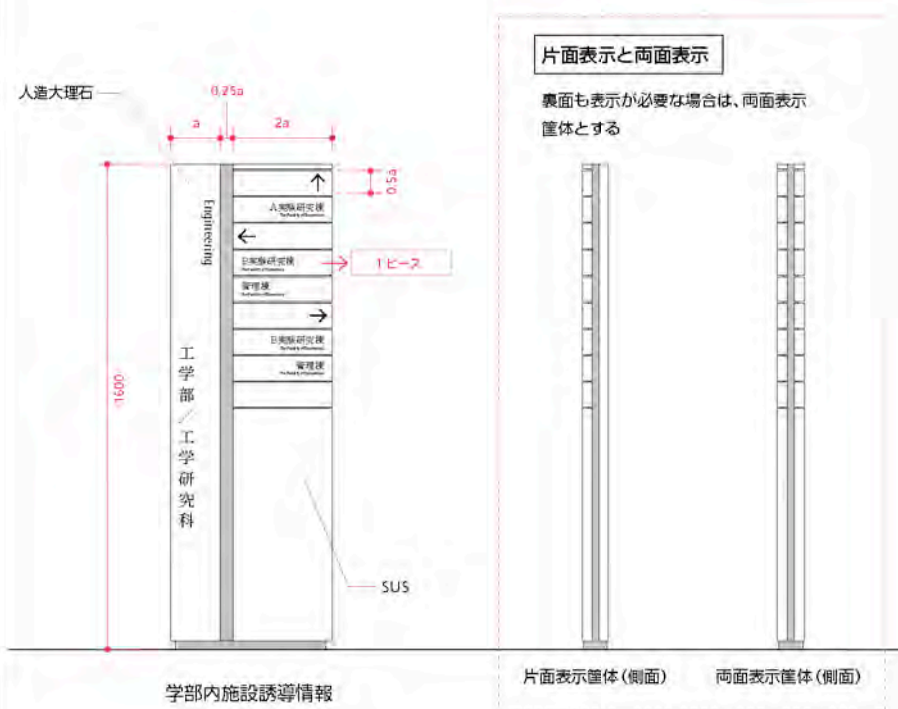


文字情報の順番

矢印が表示してある面から、目的地が近い順に提示していく。

## L-2 学部内施設誘導サイン

学部内施設エリアでは、柱部に学部/研究科名、袖部に学部内施設誘導情報を配します。



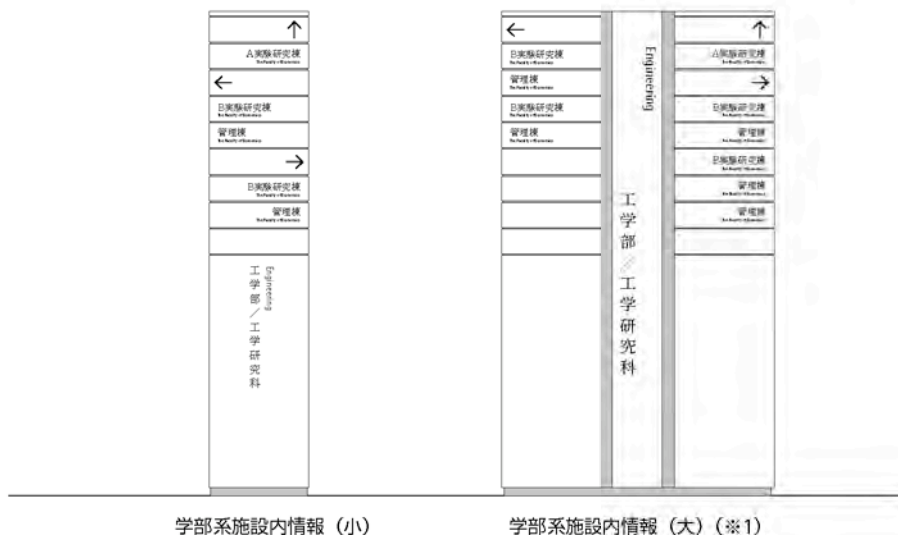
### 素材

基本ユニット以外の表示面素材はステンレス鋼板加工。  
学部内施設誘導面はインクジェットプリントシート巻き込み貼り。

### 筐体

1ピースは取り外し可能。

### 応用形



### 矢印について

矢印1個に対して1ピースとする。  
最上には「↑」に属する情報を表示する。  
次に目的地が近い方向の情報を表示する。  
すっきりと見えるよう、同方向の矢印は1個以上表示しない。



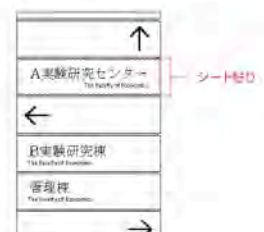
### 情報が追加、変更されたとき

情報が追加、変更の際は、1ピースを取り外して変更する。追加の際は、優先順位に従って追加する。  
また空白ピースがない場合は、1施設のみ追加する場合は矢印ピースに文字を共存させる。



### 早急の追加、変更の場合

早急対応の場合は、ひとまわり小さいインクジェットシート貼りで対応する。  
当グラフィックシステムとは異なる字体の使用、色彩は、可能な限りさける。



### (※1)

基本ユニットを境に左側には「←」を右側には「→」を表示する。  
「↑」は適した方の最上に表示する。



### L-3 非学部内施設誘導サイン

非学部系施設は黒下地に抜き文字、1ユニットにまとめて表示することで学部系誘導サインと区別します。



**文字** 最大5施設まで表示。足りない場合は増設を基本とする。  
和文は左側が起点、下揃え。欧文は上側が起点、右揃え。

**素材** 表示面素材は人造大理石使用。  
シルクスクリン印刷。

### L-4 例外非学部内施設誘導サイン

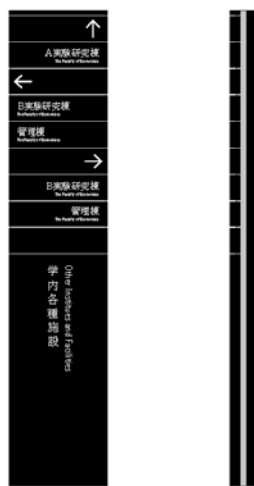
表示内容の変更が予想される箇所に使用します。(※1)

標準タイプ



基本ユニット+非学部系施設情報

簡易タイプ

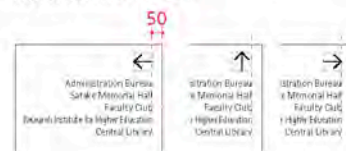


非学部系施設内情報

#### 矢印について

1ユニットに対して矢印1種。

#### 欧文の矢印レイアウト



#### 和文の矢印レイアウト



(※1) 筐体構造は、学部内施設誘導サインと同様展開。

## 7.記名サイン

### 7-1.記名サインの種類

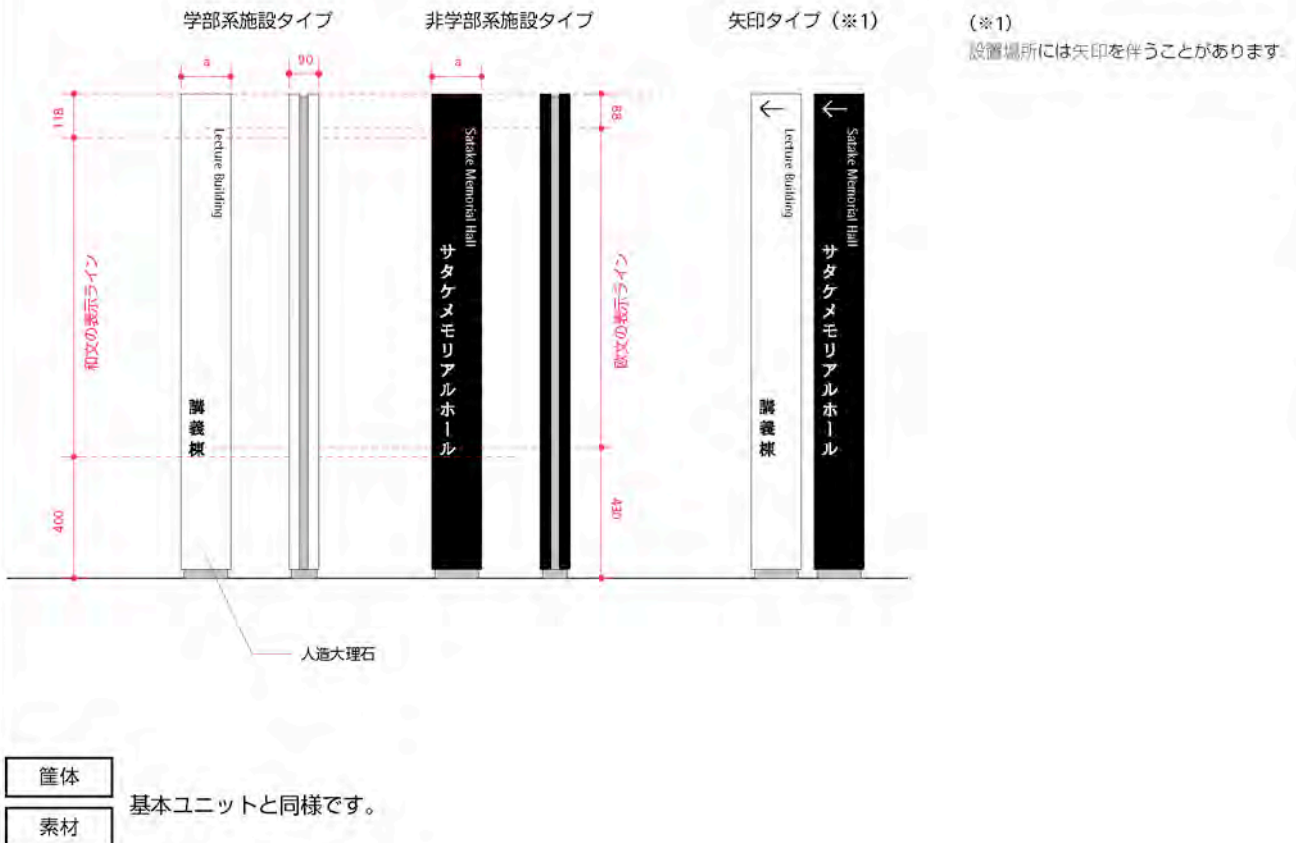
施設方向を矢印で誘導するサインは以下の三種類があります。

		定義、特長
A-1	施設記名サイン	学部系施設 非学部系施設 棟や施設名を表示
A-2	駐車場記名サイン	駐車場名と周回ルートとの位置関係を表示
A-3	ゲートサイン	キャンパスへの主たる入口でゲート性を演出

### 7-2.記名サイン姿図

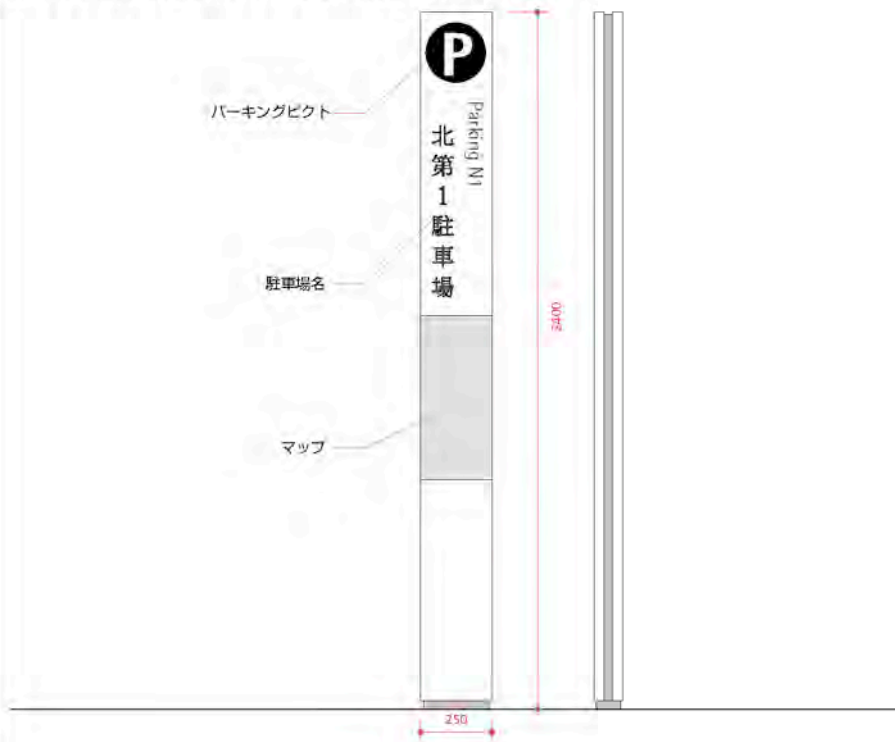
#### A-1 施設記名サイン

棟や施設名を建物へのアプローチ上など認知しやすい場に設置します。



### A-2 駐車場記名サイン

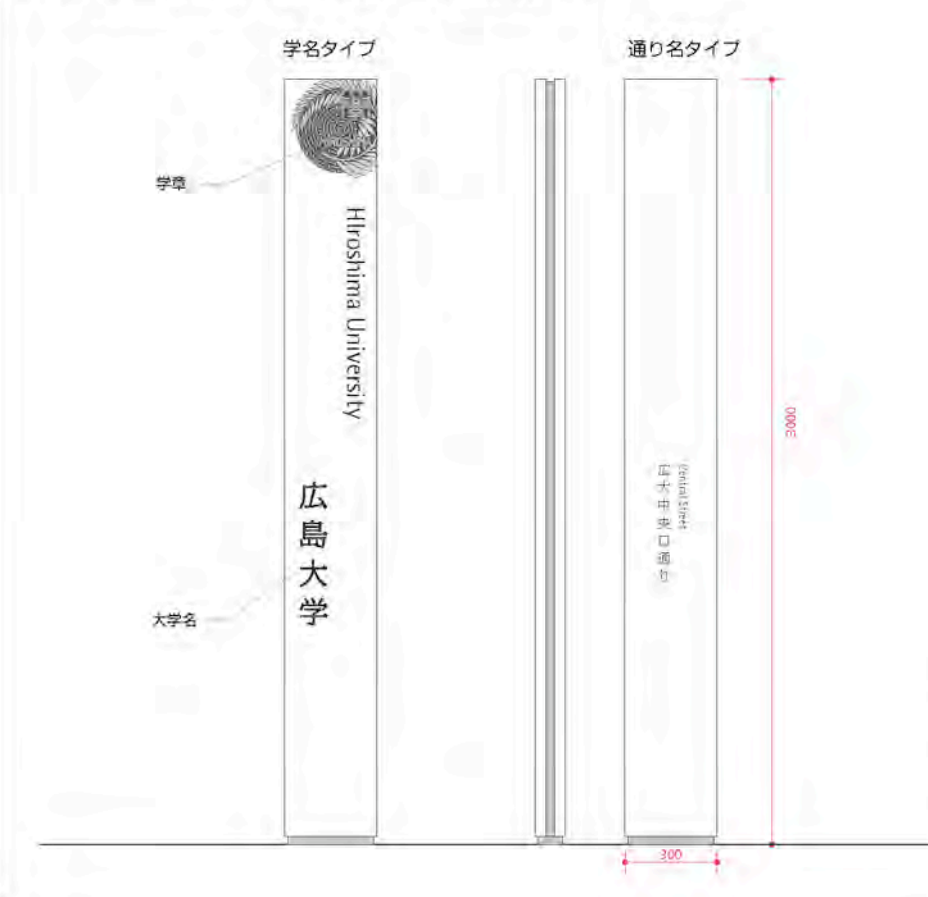
駐車場の名称を明確にすると同時に、現在地を把握できるマップ情報を表示する。



駐車場記名サイン\_素材  
表示面は人造大理石。シルクスクリーン印刷。  
マップはインクジェットプリントシート巻き込み貼り。

### A-3 ゲートサイン

キャンパスへの主要な出入口に設置し、ゲート性を強調する。



ゲートサイン\_素材  
表示面は人造大理石。シルクスクリーン印刷。

## 7-3. 特殊対応

「2-4. 誘導情報の階層化—表示名リスト」に記載の施設／場所名以外の名称は、基本的に使用できません。しかし店舗名などやむをえない場合は、記名看板がキャンパス空間を損なわないために特殊対応していく必要があります。

## 基本形(※1)

レイアウト

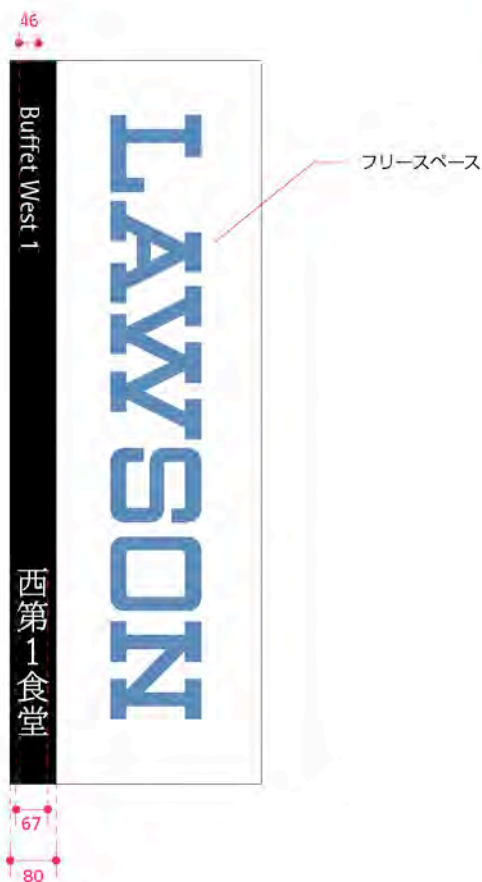
正式名称で案内、誘導を行っているので、フリースペースの下(又は左)に正式名称を示すことで混乱を防ぎます。

(※1)基本形以外の場合  
基本形とは異なった素材、表現の場合は別途協議が必要です。

【ヨコ】



【タテ】



筐体

平滑な表示面を用いる形。電照は含まない。

## 8. 禁止 / 注意サイン

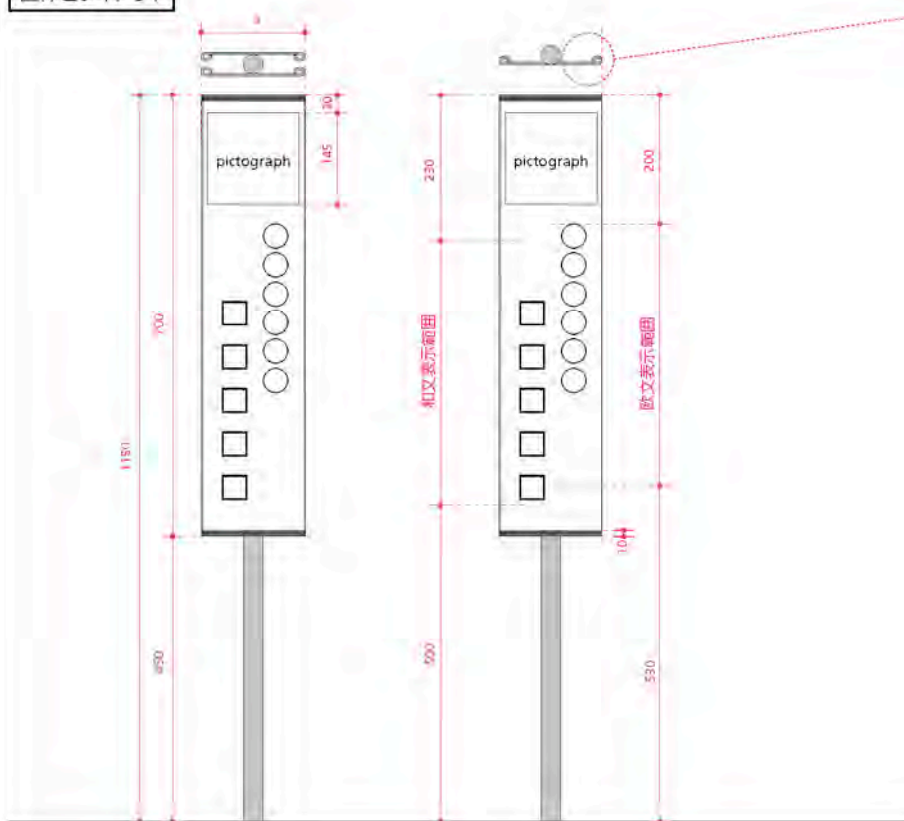
## 8-1. 禁止 / 注意サインの種類

禁止 / 注意を警告するサインは以下の二種類があります。

		定義、特長
C-1	注意サイン	注意しなければならないことを表示
C-2	禁止サイン	禁止していることを表示

## 8-2. 注意 / 禁止サイン共通項

## 筐体とレイアウト



シャープさを保ちながらも安全面にも配慮するため、鉄板を曲げ込む加工を施す。

## ピクト

一目で認識できるようにピクトを使用します。ピクトは直感的で理解しやすい「交通エコロジー・モビリティ財団」のものを使用(※1)とします。

## 文字

欧文は注意 / 禁止を、強調するため、見出しとなる部分をすべて大文字で表示します。

## 素材

亜鉛めっき鋼板加工表示面 ) (※2)  
亜鉛めっき鋼管柱

## その他

注意を促すために、筐体の上下に10mmのラインカラーを入れます。

(※1)

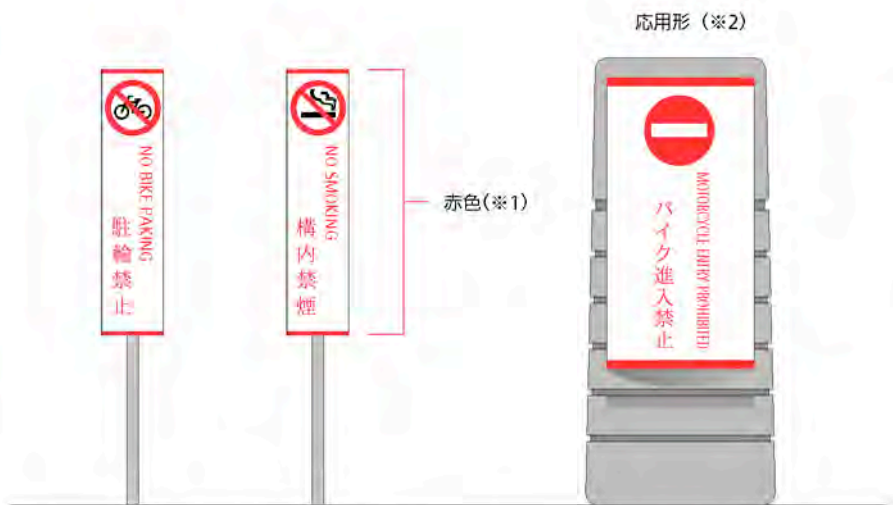
ただし、「バイク進入禁止」などピクトが存在しないものは、広大用に制作したピクトを使用します。

(※2)

筐体の構造 / 素材を限定するものではありません。

## 8-2.注意 / 禁止サイン共通項

### C-1 禁止サイン



(※1)

赤色 C=0, M=70, Y=100, K=0

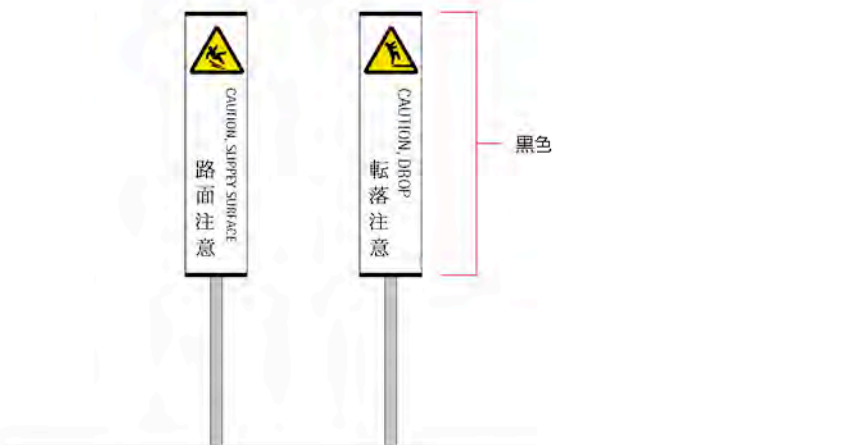
(※2)

文字、ピクトのレイアウトを守ることで、既製品にも応用できます。

文字 禁止を強調するため赤色(※1)で表示します。

ピクト 「禁止ピクト」を145×145mmで使用します。

### C-2 注意サイン



文字 禁止を強調するため赤色(※1)で表示します。

ピクト 「注意ピクト」を145×145mmで使用します。詳しくは下記。



## 9. 周回ループサイン

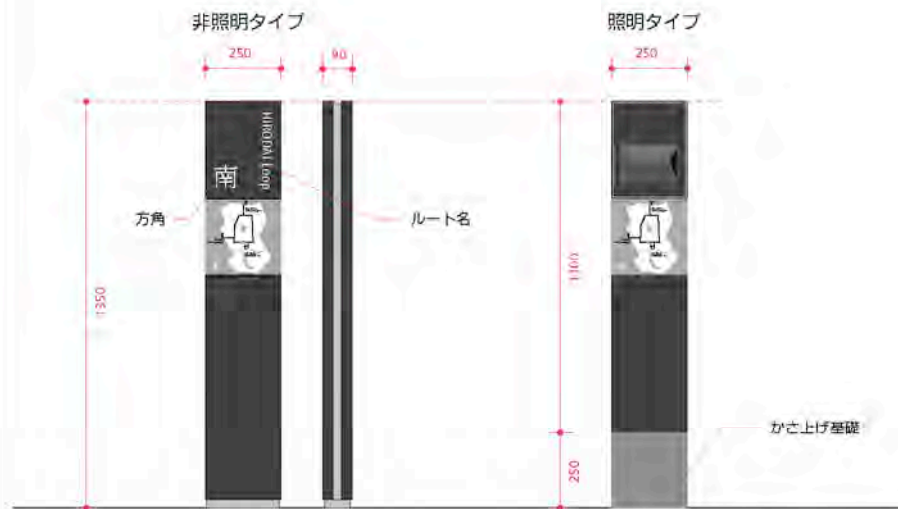
### 9-1. 周回ループサイン定義・特長

周回ループサインを一定間隔に設置することで、ループの輪郭を浮き出します。またループ上の現在地を示すことで、安心感につながります。

さらに、周回ループに独自の名称を付けて周知を図ることも必要です。

### 9-2. 周回ループサイン姿図

#### ① 周回ループサイン



**配置** サインは、周回ループの内側(池側)への設置を基本とする。

#### 非照明タイプ\_素材

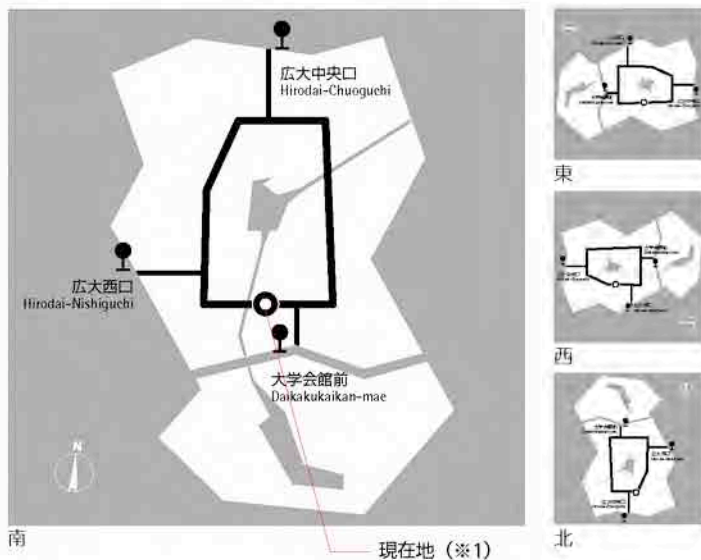
非照明サインの表示面素材はステンレス鋼板加工、指定色焼付塗装。マップはアクリル板インクジェットプリントシート巻き込み貼り(捨貼り工法)。

#### 照明タイプ\_筐体

既製品の照明器具を用いてサインとします。

### 周回ループマップ

アカデミック地区のおおまかな全体像と広大ループ上の現在地をあらわす簡略マップ(アイコン)



(※1)

現在地の方向によって、マップを回転させる必要があるため、マップは4種類用意します。

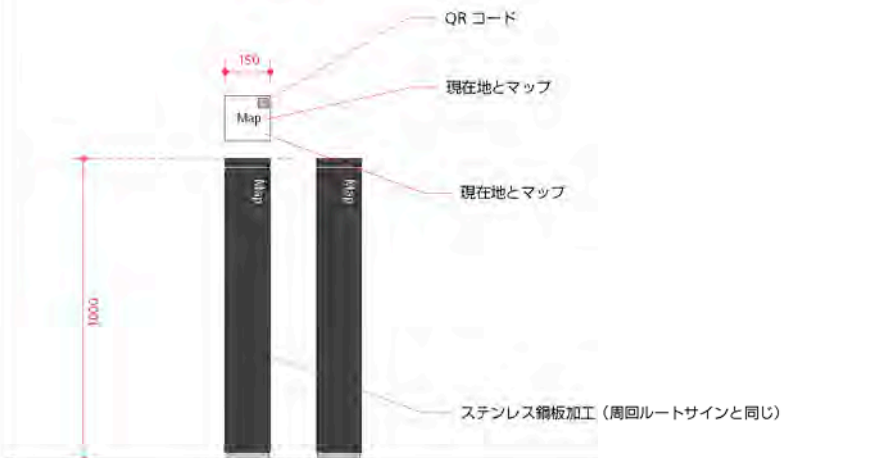
## 10.おたすけサイン

### 10-1.おたすけサイン定義・特長

サブルート上で、現在地がわからなくなった時のために、現在地がわかる最小限の情報源を表示するサイン。

### 10-2.おたすけサイン姿図

#### (H) おたすけサイン



**配置** サインは、周回ループの内側(池側)への設置を基本とする。

**素材** 非照明サインの表示面素材はステンレス鋼板加工、指定色焼付塗装。  
マップはアクリル板インクジェットプリントシート巻き込み貼り(捨貼り工法)。